

人と人、心と心、
夢と夢を
つなぐまち

うるま



since April, 1st, 2005.

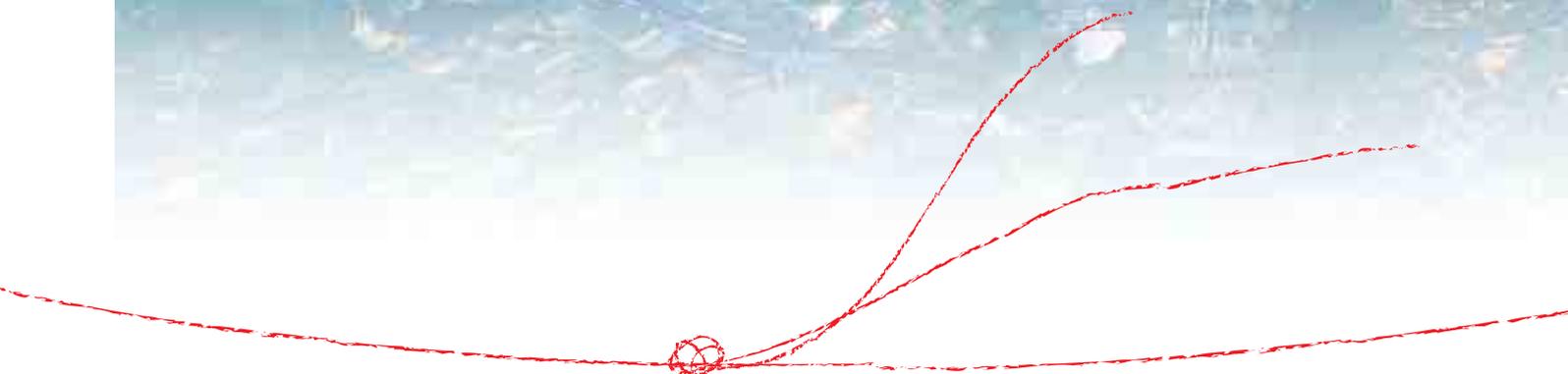
2006 市勢要覧

人と人がつながって家族になる。
家族と家族がつながるから街ができる。
「うるま市」は
ひとつひとつの思いをつないで、
誕生しました。

つなぐ。

うるまを意味する

「サンゴ礁に囲まれた島」にふさわしく、
海に面した美しいまち並みから
沖縄の美しい心を発信し、
新しい未来へ飛躍します。







うるま市長

知念恒男

Tsuneo Chinen

プロフィール

氏名 知念 恒男 (ちねん・つねお)
居住地 うるま市字具志川
生年月日 昭和15年9月11日生
略歴 平成9年3月沖縄国際大学短期大学部国文科卒業
昭和45年4月から旧具志川市議に6期連続当選
その間、教育民生委員会委員長、市議会議長歴任
平成10年9月22日～平成17年3月31日まで
旧具志川市長 (2期)
平成17年5月15日～
うるま市長就任
趣味 土いじり、樹木鑑賞

「はじめまして、うるま市です」

沖縄本島の中部東海岸に位置するうるま市は、平成17年4月1日、隣接する具志川市、石川市、勝連町、与那城町が合併し、人口約11万6千人、面積86.00平方キロメートルのまちとして産声をあげました。

本市は、世界遺産の勝連城跡をはじめ貴重な歴史遺産や文化財、各地域で永年培われてきたエイサーや闘牛、獅子舞など数多くの伝統文化が保存され受け継がれています。

さらに、海中道路や津堅島など多くの観光レジャーに適した海浜を有し、自然と文化を生かした長期滞在型観光の構築に取り組み、沖縄県の中核都市としてさらなる発展に向けたまちづくりを進めています。

国や地方を通じた財政状況の悪化、少子・高齢化の進展、住民ニーズの高度・多様化など、激動する時代に市政を運営することとなりましたが、本市では行財政の環境変化に伴う現状をしっかりと見据え、新しい行政サービスのあり方を市民の皆さまと共に考え、市民と行政が協働するまちづくりを目指しています。

そのためには各地域で築いてきた「歴史と伝統文化、民意」を尊重し、「市民・地域の個性が輝き」合併して良かったと実感でき、子々孫々が誇れる「うるま市」づくりに積極的に取り組んでいきます。

この市勢要覧では、「人と人、心と心、夢と夢をつなぐまち」をテーマに、各地域の歴史・文化・伝統をつなぎ融合することで新たな未来へ飛躍する本市の姿を紹介しています。ご一読いただき、うるま市への理解と関心を深めていただければ幸いです。

Uruma City, located along the eastern coastline of the central region of mainland Okinawa, was born on April 1st, 2005 through the merger of four municipalities-Gushikawa City, Ishikawa City, Katsuren Town and Yonashiro Town. Its population is approximately 116,000 and land area is 8600 m².

The city is home to many invaluable historical and cultural heritages including the Katsuren Castle Remains, a World Heritage site, and also to numerous traditional cultures such as Eisa dance, bullfighting, and lion dance, which have been nurtured in each of the four former municipal regions and passed on for generations.

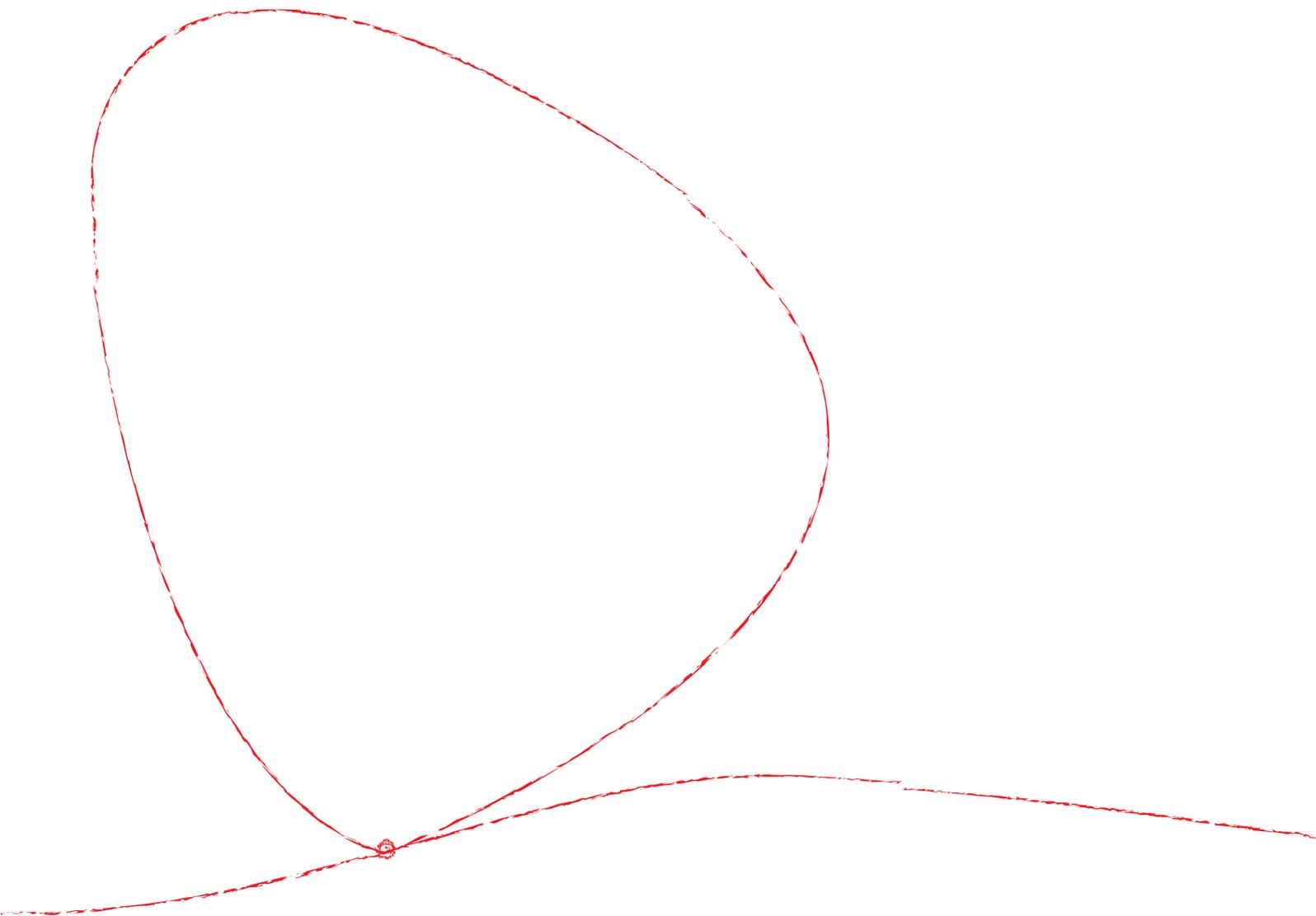
Having the sea, beaches, and other resources suitable for tourism and leisure activities, such as Sea Road (Kaichu-doro: the Road Through the Sea) and Tsuken Island, Uruma City is building its tourism for longer stays by utilizing its rich nature and diverse culture, to develop further as one of the major cities in Okinawa Prefecture.

We live in a tumultuous time-worsening fiscal conditions at the national and regional levels, declining birth rates, aging of population, and the needs of people are varying like never before-but Uruma City clearly sees its position in the midst of the changes to administrative and fiscal conditions. The city is committed to work with its citizens to develop a new form of administrative services that benefits the interests of all.

We will do this by paying respect to the history, traditional culture, and will of people in each of the four former municipalities, which have been formed over many years; only then the people will acknowledge the merger as a successful one, one that preserves the distinct colors of the regions and their people. We fully intend on building an Uruma City that people can be proud of for generations to come.

This administrative guide introduces Uruma City in its entirety under the theme "Linking person to person, heart to heart, and dream to dream", a city that looks to a brighter future by integrating the history, culture, and tradition of the former municipalities.

It is with a genuine pleasure that we introduce this guide in the hopes that it will increase understanding of our city.



CONTENTS

<i>All About Uruma City</i>		
うるま市のなりたち		04
沿革／位置・地勢／歴史／イラストマップ／史跡・遺跡・文化財／うるま人物伝		
<i>[Chapter 1] Special Article: Linking People for a Brighter Future</i>		
【第一章】特別企画「人つなぐ未来へ」		15
山学校で教える先生／マールン船は親子4代をつなぐ夢の船		
<i>[Chapter 2] Nature / Leisure / Culture / Festivals</i>		
【第二章】自然・レジャー・文化・まつり		23
人と自然の調和／レジャー施設／エイサー・獅子舞／各地のまつり・他		
<i>[Chapter 3] Specialty goods</i>		
【第三章】自慢のうるま産		39
「匠の技・キラリ」「愛情いっぱい」		
<i>[Chapter 4] EM Project</i>		
【第四章】EMプロジェクト		45
EMとは／各取り組みについて		
<i>[Chapter 5] Building People for the Future</i>		
【第五章】未来を担う人づくり		49
学校教育／社会教育／地域文化／保健医療・福祉		
<i>[Chapter 6] Creating an Environment for Comfortable Living</i>		
【第六章】快適に暮らす環境づくり		55
都市環境／生活環境／住居環境		
<i>[Chapter 7] Building Strong Industries</i>		
【第七章】活力あふれる産業づくり		59
農業／水産業／商業／工業		
<i>[Chapter 8] Administration & City Council</i>		
【第八章】行政・議会		65
三役／各行政機関／自治会プロフィール		
<i>Data</i>		
資料編		71
<i>Photograph</i>		
写真で見るうるま市		82





「広報うるま創刊号より」



うるま市の沿革

平成17年4月1日、4市町が一つになり「うるま市」が誕生しました。歴史深い世界遺産や緑豊かな自然、地域に根づく伝統文化—。新しいまちに生まれ変わっても、それぞれの個性を大切にしながら輝くまちづくりを目指していきます。



Overview of Uruma City

On April 1st, 2005, four municipalities merged into one to give birth to Uruma City, a new city replete with world heritages of historical value, rich nature, and traditional culture. The city will begin its history anew, but will treasure its unique characteristics to build a city to steer its people into a brighter future.

市章



市章の意味

うるま市の「う」の文字を図案化したもので、赤は太陽、緑は大地、青は海をイメージしている。豊かな自然の輪の中で市民の融和と平和を表現し、金武湾と中城湾に面して発展する「うるま市」の明るい未来とさらなる飛躍を象徴する。

位置・地勢

本島中部に位置し東に太平洋を望む、島しょ地域と市街地が融合したまち

平成17年4月1日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併し誕生。那覇市より北東へ25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、東に金武湾、南に中城湾の両湾に接している。東南に伸びる半島部の北方および東方海上には、有人・無人を含めて8つの島々があり、このうち5つの島は海中道路や橋によって結ばれている。



北緯26°22'45" 東経 127°51'27"
最も高い場所 石川岳 (204m)
最も長い川 天願川
(流域面積 31.61km²)
(流路延長 12.20km)

Location and Geography

Located in the central region of mainland Okinawa and overlooks to the east the Pacific Ocean, a city of small islands and urban land

On April 1st, 2005, four municipalities formerly known as Gushikawa City, Ishikawa City, Katsuren Town, and Yonashiro Town merged into one and Uruma City was born. It is located 25 km to the northeast of Naha City along the eastern coastline, in the central region of mainland Okinawa, and is adjacent to the Kin Bay to the east and the Nakagusuku Bay on the south.

A peninsula extends southeast, and over its northern and eastern seas spread eight inhabited and non-inhabited islands. Five of them are linked to the mainland by Sea Road and bridges.

歴史

個性豊かな街が一つになり、これから築く新しい市

豊富な水資源と肥沃で広い土地に恵まれ、かつて砂糖キジの生産量が沖縄一を誇り、太平洋戦争後においては外国語学校、文政学校及び農林学校などが続々創設され戦後沖縄の文教の中心地として発展してきた歴史を持つ具志川市。

戦中戦後において米軍により設置された避難民収容所や琉球政府の前身である沖縄諮詢委員会、更には民政府設置など戦中戦後の沖縄政治・経済の中心地として発展してきた石川市。

おもろそうしの中で「きむたか」(心豊か・気高い)と称され、大和の京や鎌倉にたとえられるほど繁栄が謳われ、特に城主阿麻和利の時代には最盛期を迎え、平成12年に世界遺産の指定を受けた勝連城を有する勝連町。

約2500年前の沖縄貝塚時代中期のもので沖縄最大の段丘集落跡といわれる「シヌグ堂遺跡」や尚真王の甥にあたる与那城王子朝原が授かった西原間切が平田間切、与那城間切と改名を重ね、沖縄県島嶼町制の施行など歴史的な変動を経験した与那城町。

この2市2町が合併し、平成17年4月1日に新市「うるま市」が誕生した。



URUMA city Illustrated Map

うるま市 イラストマップ



歴史深い遺跡や名所。魅力あふれるうるま市を訪れてみて！

歴史深い世界遺産や貴重な文化財、自然あふれる公園やエメラルドグリーンビーチリゾートなど、見どころがたっぷりのうるま市。沖縄本島の中部に位置しているから、アクセスも便利。楽しみ方は自由自在です。自分なりのオリジナルコースを作っていざ出発！

*Historic sites and remains abound. Don't miss them on your visit to Uruma!
Uruma City is home to a World Heritage site and other precious cultural heritages, as well as nature-rich parks and emerald green beaches. These sites are easily accessible since they are all located in the centrally region of Okinawa. Draw up your own plans and enjoy them as you like.*

ピオスの丘②

宮森小学校
石川中学校
伊波城跡
伊波小学校
7 歴史民俗資料館
石川高校
伊波中学校

石川庁舎

うるま市って
とっても
大きいネ。



おじいも
ビックリしたな〜。
歴史的にも
スゴいな〜。



金武湾

芸術のまち
だからまつりや
エイサーも盛ん。
劇場もあるよ。



川崎小
安慶名城跡
あげな中
あげな小
川崎小
安慶名闘牛場
うるま市役所
天願小
本庁
3
具志川商業高
6 野島の森自然公園
前原高
中部農林高
沖繩高等養護学校
田場小
具志川小
具志川中
具志川高
高江洲中
高江洲小
市民芸術劇場
赤道小
具志川中
中原小
高江洲中
高江洲小



与那城庁舎

1 海中道路

あ
海
や
の
駅
し
館

藪地島

勝連庁舎

勝連小
与勝第二中
平敷屋小学校
ホワイトビーチ
与勝高
与勝中
与那城小
4 屋慶名展望台

来て！見て！感じて！うるま市

公園も
いっぱいあるから
いつでも
楽しいな！

海中道路は
とっても景色が
キレイだね。
気持ちいい！



伊計島

●ビッグタイム
リゾート伊計島

●⑧大泊ビーチ

●伊計ビーチ

●伊計小・中学校



【①海中道路】
屋慶名と平安座島をつなぐ全長5キロの
道路。海風を受けて走るドライブは最高！



【②ビオスの丘】
100万坪の広大な敷地に広がる花と緑。
自然を満喫できるテーマパーク。



【③安慶名闘牛場】
収容人数1万人という、県内屈指の闘牛場。
全島大会等の大きなイベントも開催。



【④屋慶名展望台】
“沖縄の瀬戸内海”と呼ばれる海峡と連
なる山々が一望できるお薦めスポット。

こんなに
いろいろな島が
つながって
いるんだ。



浮原島



【⑤海の駅あやし館】
海中道路の途中にあるマリーン船をかた
どった観光施設。海の文化資料館も併設。



【⑥野鳥の森公園】
天願川近くの自然豊かな公園。多くの野
鳥が生息し、バードウォッチングに最適。

平安座島

●泊城跡

●宮城小

●宮城中

宮城島

●桃原小

●石油基地

●平安座小・中学校

●アマミチューの墓
比嘉小

●浜中

●シルミチュー

浜比嘉島

南浮原島

ワンッ
ワンッ



【⑦歴史民俗資料館】
うるま市指定文化財や古くから使われて
きた民具や生活用具を展示しています。



【⑧大泊ビーチ】
真っ白な砂浜と透明度の高さが魅力の大
泊ビーチ。マリンスポーツも満喫できます。

●津堅小・中

津堅島



【勝連城にまつわる物語】

阿麻和利 の生涯

HERO
of
URUMA

うるま
絵巻



混乱の時代に生きた勝連按司

阿麻和利は、農民出身で、勝連の麒麟児として民衆の人気を集めていました。ときの勝連按司の愚政に苦しんだ民衆が、阿麻和利を先頭に勝連按司を打倒し阿麻和利が勝連按司となります。若くして勝連の按司となった阿麻和利は、人々から慕われ、海外貿易によってますます力を付けました。その存在は、首里王府にとって、王権を脅かすほどの脅威であったため、時の琉球国王尚泰久は、自分の娘である百十踏場を嫁がせます。

【勝連城跡の特徴】

12～13世紀に築城されたといわれ、傾斜を利用し、美しく積み上げられた城壁がかつての繁栄を今に残しています。古の勝連城を真横から見た姿は、山原船に似ていたといわれています。

photo001. Katsuren-jō-site

World Heritage
Katsuren Castle Remains

世界遺産 琉球王国のグスク及び関連遺産群

「勝連城跡」

うるま市が世界に誇る歴史的シンボル。

沖 縄本島中部、勝連半島にある勝連城は、琉球王国の王権が安定していく過程で、国王に最後まで抵抗した有力な按司（あじ）、阿麻和利（あまわり）の居城。中国を始め、東南アジア、日本本土との海外貿易を行い繁栄を極めました。城は、四方に展望のきく比較的傾斜の急な孤立丘を取り込んで築かれており、外敵をいち早く確認できることや、南側に良港を控えていることなど、きわめて良好な立地条件を備えています。

勝連城跡の最も高い所となっているのが一の曲輪です。勝連城が栄華を誇った時代には、アーチ門が設けられていました。そこから得られる眺望は雄大で、勝連地域一帯を眼下に見、北には北部地域に連なる山々を、南には知念半島が海によこたわる全景をとらえられます。

Uruma City's World Renowned
Historical Symbol

The Katsuren Castle on the Katsuren Peninsula, which is located in the central region of mainland Okinawa, was the residence of Amawari, a powerful lord who resisted the Ryukyu Kingdom until the end when the Kingdom was fast gaining control and stability. It prospered through trades with China, mainland Japan and other Southeast Asian countries.

The castle was built around an isolated hill with sharp slopes all around to afford a clear view of the four directions, which helped in spotting enemy presence from afar, and it also had an excellent port on the south side. The castle had all the geographical advantages one would want.

At the peak of the remains is a castle compound. In the time when the Katsuren Castle enjoyed glorious prosperity, there was an arched gate. A view from the compound is quite spectacular-one can see the entire Katsuren region, a chain of mountains in the north, and the Chinen Peninsula over the sea in the south.

photo002. Katsuren-jō-site



しかし1458年に起きた「護佐丸・阿麻和利の乱」で、護佐丸を倒し、その後王府打倒へ動き出した阿麻和利でしたが、その動きを妻である百十踏場に知れることとなり、逆に首里軍に滅ぼされてしまいました。

阿麻和利については諸説ありますが、一説によると北谷間切屋良（嘉手納町）で生まれ、小さい頃は身体が弱く、山に捨てられたといわれています。ひとりで生きていく中で知恵と力を付け、勝連に流れ着いたときには、村人たちに漁網をつくったりして、慕われるようになったとされています。

The Valiant Katsuren Ruler
in the Turbulent Age

Amawari grew up in a farming family, and was popular among locals as Katsuren's child prodigy. One day, tired of the misrule of the ruler at the time, Amawari led the people to rise in revolt and defeated the ruler, becoming the new ruler of Katsuren himself. The young ruler was admired and respected by the people, and under his rule Katsuren became powerful through overseas trading. In time it became so powerful that it was a threat to the throne, causing Sho Tai Kyu, the king of the Ryukyu Kingdom at the time, to send his own daughter, Momotofumiakari, to be the young ruler's wife.

In 1458, Amawari toppled Gosamaru, the king's chief vassal, and set on to dethrone the king. His schemes, however, became known to his wife and consequently the king himself, and eventually Amawari was defeated by the Shuri forces.

【百十踏揚】



史跡・遺跡・文化財

私たちの祖先が長い歴史の中で育て、伝えてきた文化遺産。

いにしへの時代からこの地に人々が生活し、そして独自の文化を築き上げてきたことを今に生きる私たちに語りかけてくれます。うるま市には、数多くの優れた文化財・伝統芸能等が残されており、これら先人が守り、育んできた文化遺産を、学術的、芸術的、歴史的遺産としてその価値を将来に伝える必要があります。

Cultural Heritages-From Generation to Generation

Cultural heritages tell us about the people in ancient times and how they came to create their own distinct culture.

Numerous cultural properties and traditional performing arts of significant value still remain in Uruma City. It is our responsibility to pass these cultural heritages on to the next generation, which our ancestors have nurtured and preserved for generations, for they are academic, performing arts, and historic heritages.

【伊波貝塚】



石川伊波区の石灰岩丘陵下に形成された、縄文時代後期（沖縄貝塚時代前期・約3500～2500年前）の遺跡です。大正9年（1920）、大山柏によって発掘・調査されました。学史的・学術的にも大変貴重で、伊波式土器の標識遺跡となっています。

【安慶名城跡】



安慶名区の亀甲原にあるグスクで、「大川グスク」とも呼ばれています。14世紀頃、安慶名大川按司が築城したと伝えられています。加工していない石灰岩で石垣を作り、円錐丘を囲っています。城門は南向きにあり、自然の岩を巧みに利用して石を積んでいます。

【仲原遺跡】



伊計島の中央部よりやや西側にある、縄文時代晩期（沖縄貝塚時代中期・約2400～2100年前）の集落跡。石灰岩で縁取りされた竪穴住居、石灰岩の上に粘土でつくられた遺構や墓などが発見され、当時の集落の規模や構成、住居の配置や構造を知る貴重な遺跡です。

【ヤンガー（万川）】



1849年頃に琉球王府時代に首里の石工、大工などによって造られたと伝えられ、沖縄の石造建築技術が優れているのを示している。泉の内部にはトンネル状に石を組み湧き口まで続いており、毎年正月に若水を取る習わしがあります。

【伊波城跡】



石川伊波区の集落の北側の高台に位置しており、標高約80mの石灰岩丘陵に築かれた単郭式の城跡。今から700年程前に伊波按司によって築城されたと言われています。東・南・西側には一重の石垣が築かれ、崖になる北側からは金武湾や石川岳が見渡せます。

【平敷屋タキノー】



18世紀初頭、琉球の和文学者・平敷屋朝敏が農民の水不足のために池を作り、掘り出した土を盛り上げてつくった丘と伝えられている場所です。丘からはホワイトビーチ、中城湾、沖縄市～知念半島を一望できます。現在は平敷屋公園と呼ばれ憩いの場所となっています。

【アマミチューの墓】



浜比嘉島内のアマジンと呼ばれる小島にある、琉球開闢(かいびやく)伝説の神シルミチュー・アマミチューが祀られていると伝えられている墓です。毎年の年頭拝みで比嘉ノ口(祝女)が中心となって豊穰、無病息災、子孫繁栄を祈願しています。

【シルミチュー】



浜比嘉島の比嘉の南南東の森の中にあり、琉球開闢(かいびやく)伝説の神シルミチュー・アマミチューが住んでいた場所と伝えられています。アマミチューの墓と同様に、年頭拝みが行われます。洞窟の中にある鍾乳石は、子宝の授かる霊石として拝まれています。

【兼箇段ジョーミーチャー墓】



墓庭の入り口が3つあることからジョウ(門)ミーチャー(3つ)と呼ばれる墓です。このような墓は県内でも珍しく、つくられた年代は分かりませんが、雍正2(1724)年洗骨した記録が残っていることから、約280年前頃にはすでに使われていたと考えられています。

【田場ガー】



田場区の東側にあり、切石積みでつくられた規模の大きい湧水です。ウブガー(産井)とも呼ばれ、古くから正月の若水、子どもが産まれたときの産水、生活や農業用水として利用されてきました。水神を祀った祠、池の水を溜めるマグサなどがあります。

【大田坂】



大田区と川田区をまたぐこの坂道は、琉球石灰岩を敷き詰めた石畳道で、幅員が2.3m、長さが約300mあります。琉球王府時代の宿道(しゅくみち・幹線道)の一部で、今から200年ほど前につくられたと言われています。坂を上ると眺めの良い大田バンタがあります。

【沖縄諮詢会堂跡】



沖縄戦後初の政治機構、沖縄諮詢会の会堂跡です。沖縄諮詢会は、1945年8月に設立され、翌年4月26日には沖縄民政、沖縄群島政府、琉球政府と変遷。戦禍に遭わなかったこの民家で沖縄の復興のために数多くのことを話し合い、決定していきました。

【東恩納博物館跡】



1945(昭和20)年、沖縄で初めて建設された博物館跡。当初は米軍人向けの博物館「沖縄陳列館」でしたが、沖縄民政府が発足した後、東恩納博物館と改名されました。後に首里博物館と合併し、1972年5月の本土復帰で沖縄県立博物館となります。

【石川部落事務所】



昭和7年ごろに建てられた石川区の戦前のムラヤー(現在の公民館)で、県内で現存するのは石川部落事務所だけ。終戦直後、石川市が誕生したときには市役所として使われました。現在も行事や会合などに使われ、地域住民に親しまれています。

【ガーラ砦】



昭和3(1928)年の大典記念(昭和天皇の即位記念)の年、ガーラー山を切り開いてガーラ川に架けられたアーチ型の石砦。長さ5m、幅2m、川底からの高さ5mに架設されており、上に重圧がかかるほど、橋は頑固になっていくといわれています。

うるま

教育、芸能、文化。
さまざまな分野で
活躍した
うるまの誇り。

Legendary Figures of Uruma City

人物伝

うるま市のみならず、沖縄全体の教育、文化、芸能の発展に寄与したうるまの偉人。

笑いで戦後を支えた小那覇全孝氏、沖縄県民政府の初代知事として再建に尽力した志喜屋孝信氏、農耕地の保全に努めた真境名安明氏、和文学者として名作を残した平敷屋朝敏氏。私たちの誇りである4人にスポットをあてます。

These legendary figures accomplished great things for Uruma City-but they made even greater contributions to the development of Okinawa's education, culture, and performing arts.

The spotlight is cast on four figures: Zenko Onaha provided laughter to lift the spirits of Okinawans in the post-war years, and Koshin Shikiya as the first governor of the Okinawa Civil Government, was instrumental in the rebuilding of Okinawa. Anmei Majikina played a crucial role in preserving cropland, and Chobin Heshikiya, a scholar of Japanese literature, left us many remarkable works.



Legendary
Figures of
Uruma City

人物伝

笑いで戦後復興を支えた、沖縄のチャップリン

小那覇 全孝(舞天) (おなは・ぶーてん) 1897~1969 琉球芸能の達人

Bu-ten Onaha



命のお祝いをしましょう

戦後、嘉手納より石川へ移住。本職は歯科医であったが、プロ顔負けの琉球芸能の達人。「舞天-ブーテン-」の愛称で呼ばれ、得意の漫談で一世を風靡した。終戦直後、廃墟となった沖縄で人々は失意に明け暮れていた。そんな中ブーテンは「生き残った者が元気を取り戻さないといけない。さあ、命のお祝いをしよう(ぬちのぐすーじさびら)」と、三線を片手に家々を訪ね歩き、虚脱状態にある人々に「笑い」と「ユーモア」で生きる希望を与え続けた。後に沖縄のチャップリンと称され、戦後沖縄の芸能と地域社会の復興に、多大なる影響を与えた。

Let's Celebrate Life

Onaha was a dentist who had extraordinary talent for Ryukyuan performing arts that dazzled even the professional performers. He moved from Kadena to Ishikawa after the war.

People called him "Buten" with affection, and his comic monologue caught the spirit of his generation. After the war, when Okinawans were dealing with an extraordinary sense of loss on a war-ravaged land, Buten visited door-to-door with a sanshin in his hand and preached: "survivors have to pick themselves up and go on. Let's celebrate life (Nuchinogusu-sabira)." He gave lethargic Okinawans hope and will to live through it all with laughter and humor.

He later came to be called "Chaplin of Okinawa", and his great influence on the post-war Okinawan performing arts and social restoration remains vivid to this day.

Legendary
Figures of
Uruma City

人物伝

沖縄再建に尽力した、人文学博士

志喜屋 孝信(しきや・こうしん) 1884~1955 沖縄民政府初代知事

Koshin Shikiya



住民の利益と幸せを願って

明治37年4月、沖縄県内ただ一人の奨学生として広島高等師範学校に入学。卒業後、教師として岡山県、熊本県で教壇に立ち、常に自信をもって生徒の指導にあたった。終戦後の昭和21年沖縄県民政府の初代知事に就任、戦後沖縄の復興に尽力した。昭和27年琉球大学の初代学長に就任、スタンフォード大学からドクター・オブ・ヒューマニティー(人道博愛主義者)の称号が贈られた。志喜屋氏は常に謙虚な態度で我が身の労苦に一片の見返りも求めず、多くの人材を世に送り、沖縄再建の仕事に命をかけ、立派な業績を残した。

Wishing Happiness for People

In April 1904, Shikiya enrolled to study at a higher normal school in Hiroshima Prefecture as a scholarship student, the only one from Okinawa. After graduation he taught in Okayama and Kumamoto Prefectures, always leading his students with confidence. After the war, he was appointed to be the first governor of the Okinawa Civil Government in 1946 and worked hard to restore his ravaged homeland.

He became the first president of the University of the Ryukyus in 1952, and was honored with a Doctor of Humanity title from Stanford University. Always the humble one, Shikiya never expected returns or favors for his deeds; he taught thousands of students and dedicated his life to rebuilding Okinawa.

Legendary
Figures of
Uruma City

人物伝

沖縄芝居に影響を及ぼした、和文学者

平敷屋 朝敏(へしきや・ちょうびん) 1700~1734 和文学者

Chobin Heshikiya



才能に恵まれながらも、波乱の人生を歩む

薩摩支配下における苦難の時代、士族という身分におごることなく、農民をはじめとした弱い立場の人たちに温かい眼差しを向けることのできた沖縄近世随一の和文学者である。

1727年脇地頭としてこの地に配された平敷屋朝敏は、水不足に悩む農民のために溜池を掘削し、このときに掘り出した土を盛り上げて築いたのが「平敷屋タキノ」である。

恋愛讃美の代表的組踊「手水の縁」や、「貧家記」で知られ、明治以降の沖縄芝居に大きな影響を及ぼした一人である。1734年の「平敷屋・友寄事件」により失脚、「八付」(はりつけ)にされる。

A Literary Talent Born in a Tumultuous Time

When Okinawa was still under control of the Satsuma Clan and suffered from its misrule, Chobin Heshikiya, arguably the best scholar of Japanese literature in modern Okinawan history, was one of the rare few who helped the farmers and others in need.

Heshikiya was appointed to the position of land agent in 1727, and after seeing farmers deprived of water, he dug up holding ponds for them. The "Heshikiya-takino" mound is made from this dug-up dirt.

Heshikiya had an enormous influence on the production of many post-Meiji Okinawan plays, such as "Temizuno-midori", which is a major Kumi-odori dance that celebrates love, and "Hinkaki". He was brought down in the Heshikiya-Tomoyose Affair of 1734 and crucified as a result.

Legendary
Figures of
Uruma City

人物伝

護岸整備の必要性を訴え続けた、立役者

真境名 安明(まじきな・あんめい) 1884~1935 県会議員

Anmei Majikina



安定した人々の暮らしを目指して

与勝の守り人と慕われる真境名安明氏は、医師として与勝地域の住民の健康管理を担う一方、昭和4年県会議員に当選。与那城、勝連地域は、長い海岸線に位置しているが、当時は護岸施設もなく沿岸地域の田畑は毎年のように来襲する台風や豪雨などに見まれ、その被害は惨状を極めていた。真境名氏は、周辺地域の農耕地の保全を図るため堅固な護岸、堤防の築造対策に立ち上がり、昭和8年から実施された「沖縄県振興15年計画」を当地域に誘致し、与那城地域の海岸線全域の護岸工事、耕地整理事業、土木農道、河川工事等に尽力した。

In Search for Better Living Standards

Anmei Majikina, also called the "Guardian of Yokatsu" with affection, was a doctor in the Yokatsu region who was elected as a member of the prefectural assembly in 1929.

Although the Yonashiro and Katsuren regions are located along a lengthy coastline, there was no seawall back then and every year the farmlands near the coast were badly damaged from typhoons and heavy rainfall. To end this vicious cycle, Majikina stood up and built sturdy banks and seawalls for protection, and was instrumental in getting Yokatsu included in the "Okinawa Prefecture 15-Year Promotion Plan" of 1933. He also had a hand in projects like the seawall construction along the entire coast of the Yokatsu area, land consolidation, road construction, and river conservation works.



第一章

特集 人つなぐ
未来へ

Special Article:
Linking People for a Brighter Future

Special Article
特別企画

つながる *Linking People for a Brighter Future* 未来へ

S m i l e s o f c h i l d r e n a r e

特集 1

山 学校 で教える 先生

*The teacher of
Mountain(Nature)
School*

当たり前のことを、
子供たちに
伝えたい。



w h a t m a k e t h e f u t u r e !

長濱 眞盛

(ながはま・しんもり)うるま市宇堅在住。
64歳。保護司。市職員を定年後、山学校「う
りずん」を発足。子どもたちに、勤労生産体
験や天願川での自然体験を通して、自然の
営みや生活の知恵を伝授している。

子供たちの笑顔が、
未来をつくるんです。



地域の子どもは 地域で育むことが大事

もともと活動を始めたきっかけは、地域の子どもたちへサッカーを指導していたこと。

「今の子どもは買い与えられたものでしか遊ぶことができない。でも昔はそうではなく、自分が暮らす地域の自然からたくさんの遊びを考え出した。ありのままの自然に触れることで、その良さも怖さも体験できる。その中から、柔軟性や危険を回避する自己管理能力を自分なりに体得してきたものです」

長濱さんが地域にこだわる理由は彼の生い立ちも大きくかかわっているようです。

「私自身幼少期に父親を戦争で失くしたこともあって、地域のみなさんに育ててもらいました。地域の方々から多くの知識を与えられました。いろんな人とかかわることでその人が持っている知恵も身に付けたものです。地域への恩返しでしょうか私も、地域の子どもたちへできる限り手を添えたいのです。私の使命かもしれませんね」

参加した子どもたちが成人し、再度訪れることも多く、「私の子どもはもう何百人もいますよ」と笑顔を見せる長濱さん。



自宅の農園を開放し 子どもたちに自然体験を

市内の自宅に隣接する600坪の農園で、勤労生産体験、天願川の自然体験を通して、子どもたちに自然の営みや暮らしの知恵を伝授する長濱眞盛さん。20年ほど前から活動を始め、市職員を定年退職した後の平成13年に山学校を発足。今では年間約3000人の子どもたちを受け入れているといいます。

「小中学校の総合学習の授業だったり、個人や地域の子ども会の活動だったり、たくさんの子どもたちが参加します。素足で行う野菜の種まきや収穫、天願川での小動物との出会いなど、初めての経験に子どもたちはとても喜んでくれます」



一つ一つの体験を 未来につなげたい

「天願川に入ったときの子どもたちの笑顔は、とても輝いているんですよ。参加する子どもはみんな同じ表情をします。そんな彼らの笑顔を見るにつけ、私の活動は間違っていないと実感するんです」

体験学習の様子についてそう話す長濱さん。実際、何度となく参加する子どもたちもいるそう。

「将来を担う子どもたちに対して私ができることは、彼らの感動を一つ一つつないでいくこと。その場限りで終わらせない体験をしてもらうことで、地域の風土にも愛着を持って未来にも残していくことができると思います」

data:

山学校「うりずん」

電話／098-973-7467

【マーラン船】

マーラン船（山原船）は、戦前まで沖縄で貨物の輸送船として使われていた木造船のこと。琉球大交易時代、中国や東アジアと交易を行っていたころの進貢船に由来するとも言われています。



A n c e s t r a l k n o w l e d g e

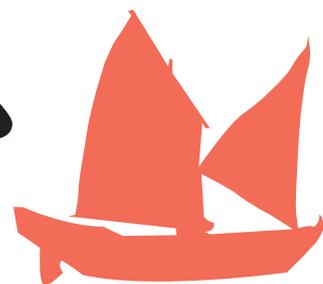
特集 **2**

マラン船は

親子4代を
つなぐ

夢

の船



*The Marlan ship is the ship of dream
that connects four generations of
parents and children.*

先人から受け継いだ
知恵と技を
伝えたい



a n d w i s d o m p a s s e d o n



越来 治喜

(ごえく・なおき)うるま市与那城平安座在住。51歳。合資会社越来造船代表。祖父の代から続く、マーラン船の船大工。マーラン船の建造技術は、うるま市の無形民族文化財に指定。

祖父の代から続く 船大工の名手

平安座島はかつて、島内交易の中継地として知られ、島民の多くが船に関わる仕事に携わっていました。そのうるま市与那城平安座で、祖父の越来五郎さん、父親の越来文治さんと、代々続く船大工の家に生まれたのが越来治喜さん。

「幼いころから祖父や父の仕事がすぐ側で見えていましたから、いつの間にか私自身もこの仕事に就いていたという感じ。二人とも腕の立つ職人で、“仕事は見て覚えろ”という姿勢で厳しかった。船づくりを通して、いろいろなもの見方も教わりました」と、当時を振り返ります。

「父と進貢船を造ったときのこと。周りは船の土台が水平だと言うのですが、父親だけは目で見えて二分違うと反論。それで私に水平計で測らせると、父親の言うとおり。感動したのを今でも鮮明に覚えています」

経験に裏打ちされた 知恵と工夫

特に越来さんが船大工という仕事に魅せられたのが、理にかなった先人の知恵と工夫だと言います。

「船造りには自由金や差し金など専用の道具がたくさんあります。これらは無駄がなく使い勝手いいように計算されたもの。例えば、一枚の板を等分するとき、差し金を使えば全体の長さを測らなくてもきちんと分けられる。10センチだから3つに等分できないという算数の考えはない。実際道具を使えば使うほど、先人の知恵は凄いと感じさせられるんですよ」

しかし現在は木造船が少なくなり、船大工の年齢も高齢化する中で、その技を次の世代に残す必要性も指摘します。

「文化というのはその時代の流れとともに変わってきていいもの。時代に合うから文化と言えるのだと思います。ただ、伝統というのはきちんと次の時代に残していかなければなりません。マーラン船もそう、それを造る技術は次の時代に伝えていかなければならない。その役割を担っている。幸いにも、私の息子たちも船大工に興味を持っています。それが喜ばしいことです」

息子と一緒に マーラン船を造るのが夢

越来さんの長男、勇喜さんは高校卒業後に船大工になり、15歳の二男、治人さんも休日には父親を手伝います。

「私が船大工になってほしいと言ったことはありませんが、父や私の仕事をしっかりと見ていたんだと思います。ただ、これからどんどん経験を積んで立派な船大工になってほしい。私が受け継いだ技を、彼らに引き継いでいきたいです」

「私の夢は、息子たちと一緒に16メートルのマーラン船を造ること」と、目を輝かせて話す越来さん。祖父、父、そして息子たち一。四世代をつなぐ壮大な夢は、近い将来必ず実現されることでしょう。

data:

合資会社越来造船
電話/098-977-7421





第二章

自然・レジャー 文化・まつり

Nature / Leisure / Culture / Festivals





宇堅ビーチ

白い砂浜が美しいビーチ。夏になると市内は勿論市外からの行楽客が訪れ、マリンスポーツなどで賑わいます。サンサンと輝く太陽の下で波と戯れるもよし、潮風を浴びながらバーベキューで一日中のんびりと過ごすのもよし。うるま市の夏は家族揃って楽しめる場所が満載です。

Uken Beach

Every summer, visitors flock to this beautiful white sandy beach from in and out of the city to enjoy all types of marine leisure. Spend the day swimming under the radiant sun or have a BBQ with your friends and family. The summer in Uruma City is full of family-oriented attractions.

自然と人の調和

Harmony of nature and a human

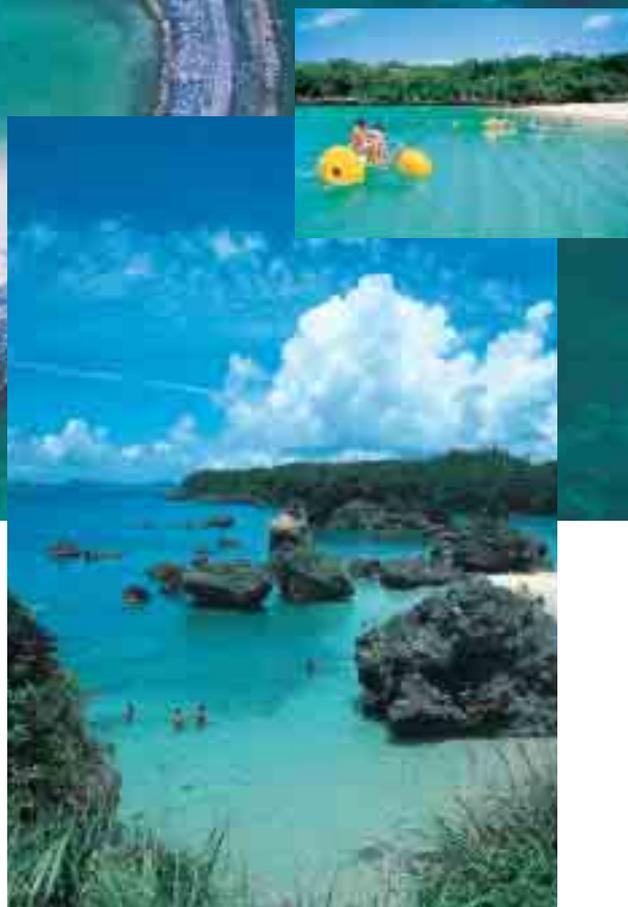


伊計ビーチ

干満を気にせず泳げるビーチ。透明度抜群の海で海水浴は勿論ローボートやジェットスキーなども楽しめます。

Ikei Beach

This beach with its transparent water is suitable for a variety of marine leisure such as jet skiing and boat rowing, regardless of tide condition.





野鳥の森公園

The woods park of a wild bird



天願川河口の自然豊かな丘の上にある公園。遠くから見ても目立つ木の枝の形をした4階建ての展望台や遊歩道の整ったきれいな公園で、リュウキュウツバメやシロガシラ、セッカ、ウグイス、キジバトなど多くの野鳥が生息している。バードウォッチングや森林浴を楽しむのに最適な場所。

Located on a green hill at the mouth of the Tengan River, this beautiful park has fabulous nature trails and a four-story observatory whose tree branch-like shape is very conspicuous even from afar. The park is home to wild birds like Pacific Swallow, Chinese Bulbul, Fan-tailed Warbler, Japanese Bush Warbler, and Oriental Turtle Dove among many others. It is a perfect place to enjoy bird watching and forest bathing.

緑あふれる通り

As full of green

緑豊かな公園、色とりどりの花、木々の合間からもれる太陽の光。街を歩くと新しい発見や、不思議な出会いが、そこに住む人々の心を豊かにしてくれます。

The verdure of nature-rich parks, colorful flowers, and the greeting of the warm rays of sunlight between trees - the city is full of discoveries and pleasant encounters, enriching the hearts of people.



自然と人の調和



ビオスの丘 *Bios on the Hill*

沖縄本来の森や山々の自然、美しい蘭の花がテーマの自然植物園。曲がりくねった森の中の湖を湖水鑑賞船でまわるジャングルクルーズが人気。原色の蘭の花や珍しい生き物たちにも出会えるかも。
うるま市石川嘉手刈961-30 TEL098-965-3400

A natural botanical garden that is replete with Okinawa's forests, mountains and beautiful orchids. The jungle cruise that explores the winding lake framed in woods is wildly popular. Orchids in primary colors and rare animals await you.

レジャー施設 *Leisure facilities*

まぶしい程に真っ白な砂浜、太陽の光でキラキラと輝く水平線、青々と生い茂った木々や可憐な花々に囲まれた公園。

街を一步離れると、あちらこちらにこうした自然に触れられるスポットが点在します。癒しを求めてドライブもよし、展望台で絶景を楽しむもよし、そして思いっきり体を動かして遊ぶもよし。さあ、皆さんも自分なりのプランを立てて、うるま市を堪能しよう。

The blindingly white sandy beach, the glittering horizon under the sun, and the park that is home to luxuriant plants and pretty flowers.

A step away from the city offers many spots of natural jewels as well. You can drive around for relaxation or check out the fantastic view from the observatory, or even exercise and break a sweat. Make your own plans and enjoy Uruma City as you like.



ふるさと海岸 (浜の人工ビーチ)

Furusato Beach (Hamano artificial beach)

神々が住むといわれるは浜比嘉島には、ふるさと海岸整備モデル事業により整備された人工ビーチがあります。潮風を浴びて一日中のんびりできるビーチです。

Hamahiga Island, known as an island where deities live, is home to this artificial beach that was built under the Furusato beach improvement project. Lay back and relax as the sea breeze strokes your face.



海中道路 ロードパーク

The Sea Road - Road Park

カイトボーディングやウィンドサーフィンのポイントとしても知られており、休日にはたくさんの観光客や、マリンスポーツを楽しむ人々にぎわいます。海中道路のほぼ中央にあり、約300台の駐車が可能。

A popular spot for kite boating and windsurfing, hundreds of holiday visitors gather to enjoy marine sports and other leisure activities. It is located almost at the halfway point of the Sea Road, and has a parking capacity of approximately 300 cars.



具志川野外レクリエーションセンター

Gushikawa Outdoor Recreation Center

豊かな自然に囲まれた、家族で楽しめるアウトドア施設。隣接するスポーツランドにはバンガローやキャンプ場もあります。

This outdoor recreation facility in a gorgeous natural environment is suitable for families. Bungalows and camping grounds are located next to the center.

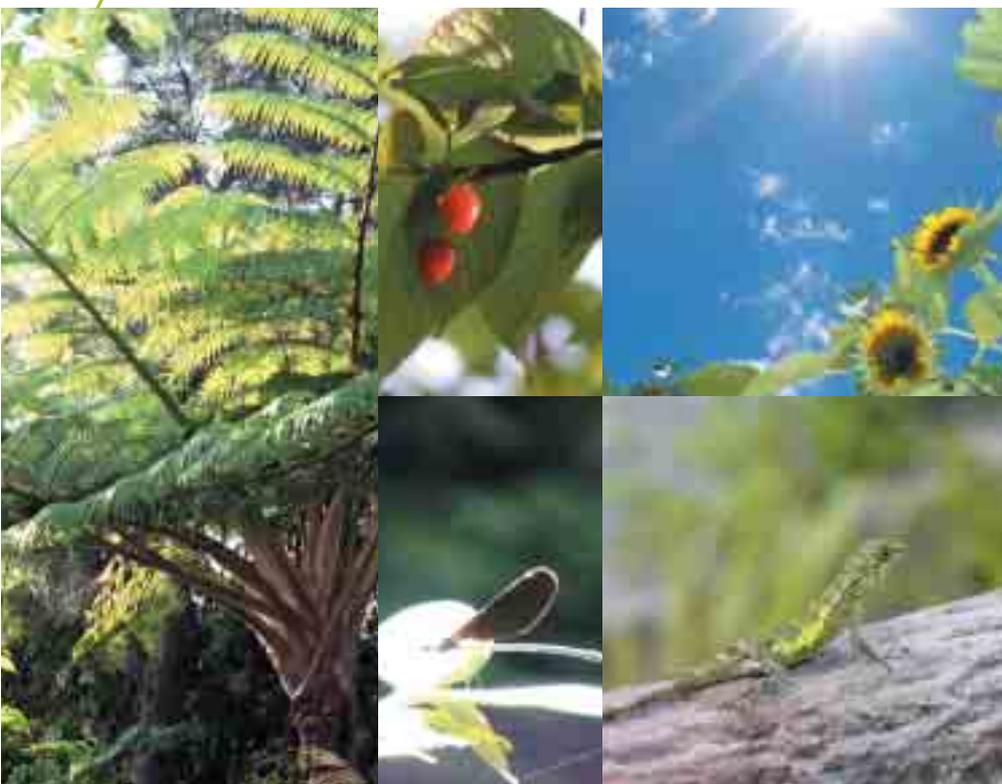


伊計大泊ビーチ

Ikei Odomari Beach

伊計島の西側にあるビーチで100%天然のビーチ。何もなければ自然が満喫できます。サラサラの白い砂浜が続き、透明度も抜群。

A 100% natural beach on the west side of Ikei Island, the beach offers nothing but its pristine beauty - but what more do you really need? The long white sandy beach and astoundingly transparent waters await your visit.



まだまだ
あるよ!



石川少年自然の家

Ishikawa Children's Nature Center

恵まれた自然の中で登山や自然観察、懐中電灯の明かりだけを頼りに歩くナイトウォークラリー、野外炊飯活動、星座観察等様々な活動をすることができます。

〒うるま市石川3491-2
☎ 098-964-3263

Mountaineering, nature walks, night walk rally (hiking at night with only a flashlight), outdoor cooking, and constellation studies are a few of many activities offered at the facility.



海中道路

The Sea Road

与勝半島と平安座島を結ぶ全長4・75kmの海中道路。途中には海の駅あやはし館や海の文化資料館があり、ぜひ一度体験してほしい絶好のドライブコース。

〒うるま市与那城屋平4番地
☎ 098-978-8831 (海の文化資料館)

The Sea Road is a 4.75 km road that connects the Yokatsu Peninsula and Henza Island. There is a resting facility(Ayahashikan) with stores and also a cultural archive along the roadside. An absolute must for visitors who love driving.



屋慶名展望台

Yakena Observatory

海上貿易の拠点であった屋慶名海峡を望むことができる展望台。平安座島、宮城島、伊計島をはじめ津堅島や本島中北部の山なども見渡すことができます。

The observatory gives visitors a great look of the Yakena Strait, which was once a hub for sea-borne trade. Henza Island, Miyagi Island, Ikei Island, Tsuken Island, and the mountains in the north are all within the observation range.



石川高原展望台

Ishikawa Kogen Observatory

約200段もの長い階段を上りつめると、そこには東シナ海と太平洋を一望でき、息を呑む程に美しい景色が広がっています。

Nearly 200 steps up the stairs and you will be treated with a breathtakingly magnificent view of the East China Sea and the Pacific Ocean.



具志川運動公園

Gushikawa Athletics Park

総面積21.15haの総合運動公園。陸上競技場、体育館、野球場、芝ゲートボール場、テニスコート、多目的広場などがあります。

🏠 うるま市字大田427
☎ 098-973-0230

A comprehensive athletics park that boasts a total area of 21.15 ha, Gushikawa Athletics Park has a track, gymnasium, baseball stadium, gateball lawn, tennis courts, and a multipurpose ground.



高原ゴルフクラブ

Kougen Golf Club

水と緑にまつまれた爽やかなゴルフコース。金武湾が望める景勝地で思いっきりプレーが楽しめます。

🏠 うるま市石川東恩納1406-29
☎ 098-965-3500

A golf course that is also a refreshingly beautiful scenic spot, players can tee off with a grand view of the Kin Bay.



具志川ゴルフクラブ

Gushikawa Golf Club

ビギナーは勿論、ベテランプレーヤーも納得のショートコース。起伏に富んだダイナミックなコースレイアウトが人気。

🏠 うるま市字栄野比590-1
☎ 098-972-3131

The short course is certainly beginner-friendly but has enough tricks to challenge advanced players also. The dynamic course layout, with many uphill and downhill, is very popular.



沖縄ロイヤルゴルフクラブ

Okinawa Royal Golf Club

東に太平洋、西に東シナ海、紺碧の海を眼下に、爽やかな空気に包まれた石川高原にある本格的なゴルフクラブ。

🏠 うるま市石川山城1436
☎ 098-964-2811

The Pacific Ocean to the east, the East China Sea to the west, and the azure sea down below - the full-fledged golf club on the upland plains of Ishikawa has it all.



東山カントリークラブ

Higashiyama Country Club

石川岳の丘陵地にありその起伏に富んだ地形を取り囲んだコースレイアウト。年中咲き誇る花と豊かな緑が南国気分を盛り上げます。

🏠 うるま市石川3259-163
☎ 098-965-6914

Located on the hills of Ishikawa, the course made full use of the hills and the rugged ground. Beautiful flowers bloom all year around and coupled with rich greenery the club gives off a tropical feel.

闘牛の王国

大衆娯楽の一つとして、古くから沖縄で親しまれてきた闘牛（ウシオーラセー）。牛同士を戦わせ、
一対一の対戦を行うのが沖縄の闘牛です。
うるま市では戦前、戦後を経て、今なお盛んに行われ、
「闘牛のまち」としても知られています。
市内には五つの闘牛場があり、
全島闘牛大会や準全島大会などが行われ、
大勢の闘牛ファンが訪れます。
1トンを超える巨体のぶつかり合い、
それを叱咤激励する闘牛士—。
沖縄の闘牛の魅力を紹介します。



Bullfighting
 **kingdom**

Bullfighting (Ushiorase in Okinawan dialect) has long been one of the most loved entertainments in Okinawa among the common people. In Okinawan bullfighting, two bulls battle head to head. Uruma City has a long history of bullfighting that dates back to pre-war times, and is known as the "city of bullfighting" as competitions are still held regularly. There are five bullfighting rings in the city that play host to various bullfighting events large and small, including the All-Okinawa Tournament, to which many avid fans attend. Witness the crash of two giant bulls each weighing more than a ton, and the blaring roars of bullfighters.

ビギナーにもわかる 闘牛の楽しみ方・見方



「ガツン」という角がぶつかり合う音、「ウンギュー」としぼり出したような声。

1トンの巨体をぶつけ合い、必死に相手を倒そうとするむき出しの闘争心はとにかく迫力満点です。

その様子を見ているだけでも楽しめますが、闘牛特有の技を知っているとさらに面白さが増します。例えば、相手の首に自分の首をかける「首持たせ」や相手の頭や顔を角で突く「割り」。このような技を使いながら、数分で決着がつくこともあれば、30分以上続くこともあります。最終的には、お尻を向けて逃げた牛の負け。観客も一喜一憂しながらその行方を見守っています。

また、初めて闘牛を見ると気になるのがユニークな牛のネーミングの



数々です。「ゆかり号」「昆布ヒーゲー」「突撃パンダ」など、牛の角や色合いなどの特徴や、家族にちなんだ名前が盛り込まれ、興味をそそられます。名前でお目当ての牛を選んでみるのもよさそうです。

ほとんどの闘牛場はすり鉢状になり、直径18メートル前後の土俵を取り囲むように客席が並んでいます。牛たちの白熱する闘志をぜひ一度まじかで観戦してみてください。

闘牛 まめ知識 技



カケ
相手の角に自分の角を掛けてひねる



フリ・ツキ
相手の頭や顔を角で突く



押し
額をひたすら押し付ける



首持たせ
相手の首に自分の首を掛けてのしかかる



腹取り
相手の腹を狙い、横腹を一気に襲う



過去に10連勝をした経歴を持つ安慶名さんの受賞トロフィーの数々。

安慶名米三さん(80歳)と、新しい牛「米大勝龍」(体重1,050kg)。「これはいい牛。これからは楽しみです」と目を輝かせる。

長年の夢を実現したい 手塩に掛けたわが子を横綱に

うるま市天願で50年も闘牛の飼育に携わる安慶名米三さん80歳。過去に10連勝したという経歴を持ち、現在は息子さんやお孫さんと一緒に3頭の牛の世話に精を出す日々を送っています。

「育てるうえで大切なのは、牛の健康管理。大会に合わせ減量のために餌を調整し、体調を整えます。また勝負に勝つには経験が必要ですから、練習試合をさせて技を習得させたり勝負のコツも覚えさせます」

と解説する安慶名さん。

実際の大会では、勝敗を左右する闘牛士の役割も大切。安慶名さん一家では、お孫さんが闘牛士として牛の脇について激を飛ばすこともあると言います。

「私自身もそうでしたが、息子や孫も幼い頃から闘牛に親しんでいますから扱いには慣れていました。大会には家族みんなで勝負に挑み、妻や娘、嫁たちがご馳走を用意して待っていてくれますよ」

家族総出の一大イベントになっている闘牛大会。闘牛の飼育は安慶名さん自身の健康の秘訣にもなっているようです。

「先日、新しい牛を手に入れましたから、これから先が楽しみです。今まで横綱にしたことはまだありませんから、この牛に掛けています」と目を輝かせる安慶名さんです。



新里獅子舞



天願獅子舞



友寄獅子舞



パワ

沖縄全島の技と伝統

獅子舞

躍動感あふれる演舞

全島獅子舞フェスティバル

沖縄各地で奉納されている獅子舞を一堂に会し、伝統の技を競い披露するイベントです。昭和62年にスタートし毎年秋に安慶名闘牛場で開催されています。

沖縄各地に伝わる獅子舞は、シーサーと同じく中国から伝わったものといわれ、百獣の王・獅子を舞わすことによって悪霊を払い、弥勒世を招来し、五穀豊穡とともに共同体の繁栄がもたらされると考えられています。

Lion dancers from all corners of Okinawa congress and showcase their traditional artistry at this event. It began in 1987 and is held every fall at the Akena Bullfighting Ring. The lion dance is believed to have been imported from China just like shisa, both of which quickly spread all over Okinawa. It is believed that the lion - the king of beasts - wards off evil spirits and invites salvation, and brings happiness and prosperity to all.

エイサー

まち全体が熱気に包まれる 青年エイサーまつり

旧盆の日に先祖の霊を慰めるために行われるエイサーは、各地域の青年達の手によって守り、受け継がれてきました。真夏の夜空にこだまする太鼓と三線の響き、青年たちの勇壮かつ華麗な演技は、観衆の心を揺さぶり、奮い立たせ、街全体を熱気で包み込みます。

Eisa, traditionally performed at the Obon Observance to welcome back ancestral spirits, has been preserved and passed on for generations by the young. The feverish echoes of drums in the midnight summer, beautiful melody of the sanshin, and dynamic dances by youthful performers touch the hearts of the audience and inflame the entire city by its pure passion.

炸裂!!!

がうるま市に結集



与那城屋慶名エイサー



具志川赤野エイサー



勝連平敷屋エイサー



4つのまちが集まったから
まつりも一気に華やかに!!



うるまのま

Festival of Every Place



うるま市では「全島闘牛大会」「全島獅子舞フェスティバル」「各地のハーリー大会」「春の芸術祭」「青年エイサーまつり」など、一年を通じて様々なイベントが開催されています。

又、各地域で受け継がれてきた伝統芸能や年中行事が今も色あせることなく行われています。

Various events including the All-Okinawa Bullfighting Tournament, All-Okinawa Lion Dance Festival, regional Hari tournaments, Spring Art Festival, and Youth Eisa Festival are held all year around in Uruma City. Smaller regional events, like traditional performing art shows, are held regularly as well.





春の芸術祭

元々芸能文化の宝庫であった具志川、石川、与那城、勝連が1つになり、各道場の垣根を越えた演技者の格調高い舞台芸能が繰り広げられています。

The spring Art Festival

The four former municipalities that merged into one to become Uruma City - Gushikawa, Ishikawa, Yonashiro, and Katsuren - had always been a cultural treasure box of performing arts. Refined and distinguished performances, regardless of the performer's background and sect, are showcased for your viewing pleasure.



夏の到来を告げるハーリー大会

ハーリーはもともと「海神祭」という海人(うみんちゅ)たちの祭りで、一年の豊漁、航海安全を海の神様に願う行事。

毎年夏になると、市内各地の漁港でハーリー大会が開催されています。子どもたちやハーリーファンが参加する大会から、海人や練習を重ねてきた強豪チームが集う本格的な大会まで幅広く行われています。

The Hari convention which tells arrival of summer

Hari had originally started as a festival by fishermen(Umincyu in Okinawan dialect) to pray to Sea God for a good yield and a safe return. Ports in Uruma City host Hari tournaments every summer, from recreational tournaments for children and regular Hari fans to competitive tournaments for skilled racers.



あやはし 海中ロードレース

「磯のかおりを楽しみながら、海中道路を走ろう」をキャッチフレーズに、平成13年から開催しています。本島屋慶名側と平安座島を結ぶ全長約4.7kmの海中道路は、さながら海の上を走行している気分を味わえる道路で、全国的にもまれなコースです。

Ayahashi Inside of the sea Rord Lace

The event began in 2001 under the catch phrase: "Run along the Sea Road while appreciating the sea breeze". The Sea Road, 4.7km in length, connects Yakena of mainland Okinawa and Henza Island, and running along the road may give you a feeling that you are actually running at the sea level. It is a rare course even by national standards.



あやはし ロードレース コース説明

うるま市与那城総合公園陸上競技場をスタート／ゴールとする全長4.7kmの海中道路が舞台。種目は21.0975kmのハーフマラソンと、10km、3.8kmのトリムマラソンが用意されています。



Course Explanation

The start and finish is at Uruma City Yonashiro Comprehensive Park's track, and the 4.7km of the Sea Road is the stage. Runners can choose from race distances of 21.0975km (half marathon), 10km, and 3.8km.

見て、作って、楽しんで

シーアート Sea Art フェスティバル

海を愛する全ての人を対象に、環境にやさしい家族参加型のイベントとして、海の駅あやはし館北東側に位置する干潟で開催。砂を使って思い思いの作品をつくり、競い合うイベント。

Sea art Festival

This is an environmentally conscious and family-oriented event for all sea lovers, held at the tideland northeast of the Uminoeki-Ayahashikan complex. Express yourself with sand and compete with others.





第三章

自慢の うるま産

Specialty goods



自慢じまんのうるま産

made in URUMA

匠じの技・キラリまん

うるま市には、市産品がたくさんあります。伝統的工芸から、新しく仲間入りしたものでさまざま。匠の技がキラリと光る自慢のうるま産を紹介します。

KIRARI!: mastery of craftsman

From traditional to modern crafts and products, local specialties abound in Uruma City.

Check out what Uruma's master craftsmen have to offer.



菓子



いしかわ のりよし
石川 徳義さん

沖縄在来種ではうるま市だけで栽培されている「山城茶」を盛り込んだ「みほそまんじゅう」。その生みの親がプティ・フルの石川徳義さん。

「茶葉の風味や色合いを再現するのに2年がかり。納得できる饅頭ができました」

地元はもちろん、他の市町村からも人気です。

みほそまんじゅう



焼き物



たいら ゆきはる
平良 幸春さん

「これまでにない作品を作りたい」と釉薬の研究を重ね、独自の作風で琉球太田焼を確立させた平良幸春さん。

国内はもとより、ドイツやフランスでもその作風は認められ、数多くの賞を受賞。日展より会友を推挙されました。

「沖縄の海をイメージした」という「蒼海」は代表作。

琉球太田焼



塩



たか やす まさかつ
高安 正勝さん

世界一ミネラルが多い塩としてギネスの認定を受けた「ぬちマース」。独自の製法を開発し、商品化したのがベンチャー高安の高安正勝さん。

「海水に含まれるミネラルをすべて結晶化できるので、とても体に良い塩なのです」

医学会や料理研究の分野でも注目を集めています。

ぬちマース





ビーグ織り



てる や しゅ きん
照屋 守謹さん

うるま市のビーグは、県内生産量の95%を占めるほど盛んに栽培されています。

「約130年の歴史があると言われ、色持ちや香りがよく質の良いのが特徴です」とうるま市い草生産組合長の照屋守謹さん。

畳以外に、枕やティッシュケースにも応用されています。

ビーグ (い草)



メンサー



いは さだ こ
伊波 貞子さん

琉球王国時代に伝来されたと言われる「伊波メンサー織」。その技術保持者として市の民俗文化財に指定されているのが伊波貞子さんです。

「イザリ織の技法は国内に3例だけ。5つのパターンを組み入れながら織ります」。現在、後継者育成のほか、身近な小物類へも展開しています。

伊波メンサー織



にんじん

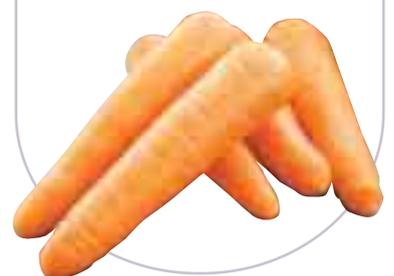


おい し せい こう
大石 清光さん

勝連半島の沖にある津堅島の名産は「つけんにんじん」。

「ほんのりピンク色を帯び、甘くてやわらかいのが津堅人参の特徴。おいしいと評判です」と話すのは、勝連津堅人参部会会長の大石清光さん。12月から4月ごろまでが最盛期。島興しにも一役買っている人参をぜひこの時期に。

津堅にんじん



愛情いっぱい

沖縄の太陽と愛情をいっぱい受けて育った農産物や海産物、さらにおいしくした加工品など、うるま産はまだあります。

full of love

There are more Uruma-made products-agricultural and marine products nurtured under the loving care of Okinawa's sun, and delicious processed foods.

で〜じょうとう!!

#1

昔から
親しまれてきた
お茶

山城茶・グアバ茶

沖縄には、体によいからと昔から頻繁にお茶を飲む習慣がありました。たくさんのお茶がある中で、うるま市といえば2つのお茶が有名です。

一つは、沖縄の在来種で現存するのはうるま市石川だけとなった「山城茶」。香り、のど越しがよいのが特徴で、ビタミンも豊富に含まれている緑茶です。茶畑がある山城区では、4月ごろから茶摘が始まり、加工される工場付近ではお茶のいい香りが一面に漂います。

もう一つは、多く含まれるポリフェノールが注目を集める「グアバ茶」です。沖縄では古くから体にいいと親しまれていたお茶の一つでもあります。独特の風味があり、体にいいことから県内はもとより、県外の方



にも人気のようです。

具志川地区を中心に26戸の農家で生産され、洗浄、チョップ、乾燥、袋詰め作業をJAゆいなグアバ生産部会の会員が手掛けています。

やま ぐすく ちゃ
山城茶・
グアバ茶

ちゅらさん!!

#2

全国的にも
生産数が多い
沖縄の花どころ

か き

花卉

キク・洋蘭

日本でもっともポピュラーな花といえばキク。沖縄は日本でも有数のキクの産地で、特にうるま市では積極的に栽培されています。キクの栽培時には、開花調整を目的に夕方から夜にかけてキクに光を当てる光景があちらこちらで見られ、幻想的な雰囲気を醸し出しています。

また亜熱帯をイメージさせる洋蘭の栽培も盛んで、各企業が新たな品種の改良にも力を入れています。



ちゅらさん!!

#3

歴史深い
沖縄のお酒泡盛

あわもり

せいしゅ

泡盛・清酒

神村酒造・崎山酒造廠・泰石酒造

沖縄のお酒といえば泡盛。うるま市には3カ所の酒造所があり、それぞれに特徴のある泡盛を製造しています。

「神村酒造」は1882年創業という沖縄でも歴史のある酒造所です。櫛樽で貯蔵する泡盛はコクと独特の香りが好評で、泡盛品評会でも数多くの賞を受賞しています。

由緒正しい首里三箇の流れをくんだ歴史ある酒造所が「崎山酒造廠」です。泡盛には、沖縄では珍しくすべて軟水を使用し、まろやかな味わいを醸し出しています。

日本最南端の清酒蔵元として、清酒、焼酎を製造するのが「泰石酒造」。新しい沖縄の味を生み出しています。



ちゅらさん!!

#4

きれいな海で
育まれた
自然の恵み

かい さん ぶつ

海産物

もずく・海ぶどう・加工品

離島や半島など恵まれた環境を活用して、うるま市では「もずく」や「海ぶどう」などの海産物も多く採れます。特にもずくは本土のものと比較しても太く、フコイダンの量も多いと言われ、県外でも人気です。またプチプチとした食感が楽しめる海ぶどうも注目を集めています。

最近ではそれらを料理に活かした「もずくカステラ」や「もずくゼリー」、「イカのウニ漬け・墨漬け」などの加工品の製造にも力を入れ、新たな特産品として展開しています。



ま〜さん!!

#5

太陽を浴びて
育った
元気食材

や さい

野菜

やまいも・にんじん・オクラ・黄金いも・シモン
いも・紅いも・いんげん

サンサンと照らす太陽を浴びて育った農産物は豊富です。石川区ではイベントも行われるほど有名な「やまいも」や、島自体を“キャロットアイランド”呼ぶほど盛んに栽培されている津堅島の「津堅にんじん」をはじめ、「オクラ」や「いんげん」「黄金いも」「シモンいも」「紅いも」はうるま市ならではの特産品です。地域の商店街や市場、土産品店にも並び、他の地域からそれを求めて訪れる人も多いようです。



ま〜じょうどう!!

#6

微生物の力で
作られた品々

EMしょうひん

EM商品

米・菓子類・お茶・塩・ドリンク

EMの技術はその安全性から農業、畜産業、リサイクル、土木建築など、さまざまな分野で応用されています。例えば農業においては土壌の改善、畜産業においては糞尿の堆肥化や家畜体内の正常化などに使われ、それに伴って新たな関連商品が販売されています。現在は、米や菓子類、野菜などの食品や、食器用洗剤などEM商品は開発され、県内全域にその裾野を広げています。



(※次の章でEMについて詳しく説明しています。)

ま〜さん!!

#7

南国の
トロピカル果実が
満載

ふる一つ

フルーツ

みかん・マスクメロン・マンゴー・
あまSUN・パパイヤ

うるま市のフルーツは本土へ出荷されているものも多く、どれも質の良さが特徴です。中でもここ数年で開発、商品化されるようになった「あまSUN」は、1~2月の収穫時期しか店頭に出回らないこともあって、県内各地でも話題の柑橘類。甘さと酸味のバランスの良さが特徴です。

そのほかにも、県内では珍しい「マスクメロン」をはじめ、「温州みかん」「マンゴー」「パパイヤ」など、たくさんのフルーツが栽培されています。



うるま産一覧

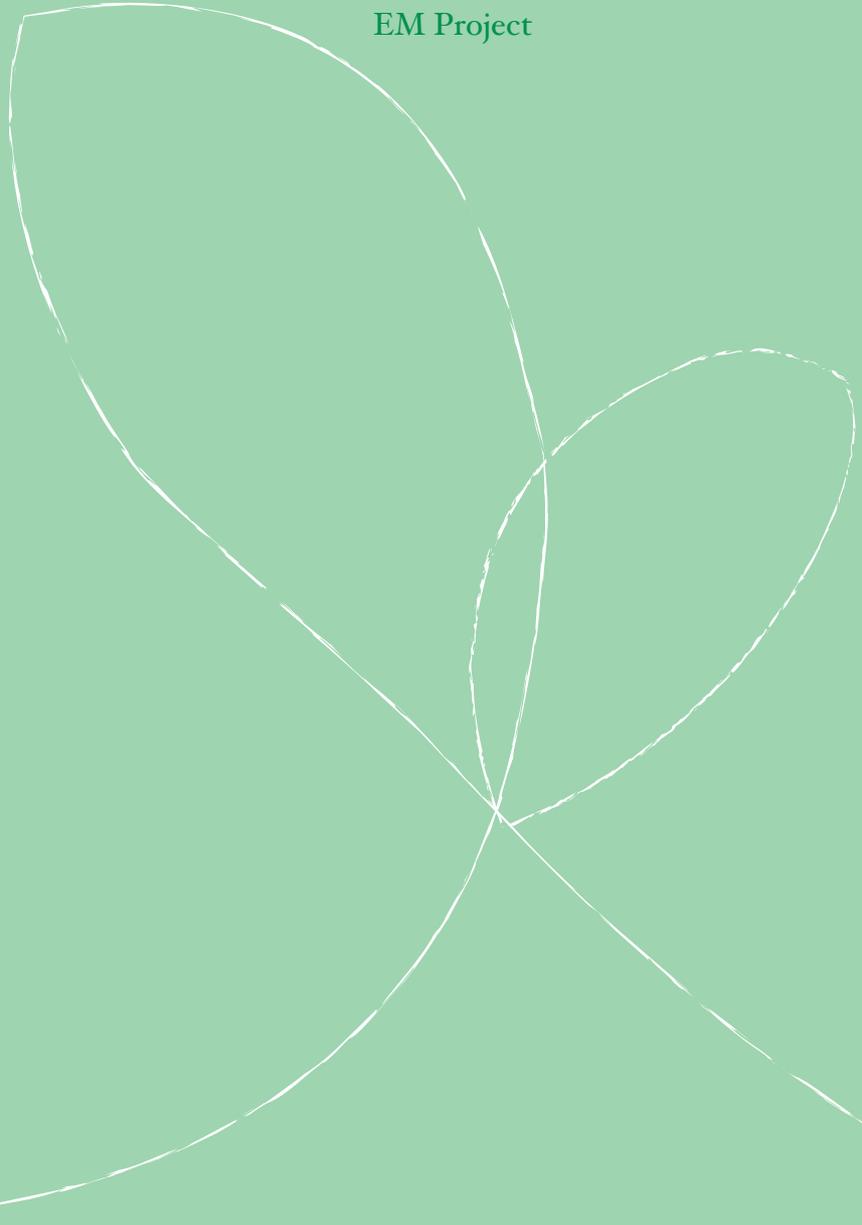
ちんすこう、水まんじゅう「粒果」、黒糖、シフォンケーキ・恋のやまいも、もずっこ、
蘭繊維製品、春ウコン、刃物・農具（手作り）、にんじんカステラ、キャロットゼリー、
泥バック・育毛剤、トラパーチン（天然石）、小二郎焼、きじむなあ焼



第 四 章

EM プロジェクト

EM Project



EM

でつなく、

Effective Microorganisms

エコロジカルなまちづくり

本市では「豊かで自然と人が調和した健康で心豊かな活力ある。歴史と教育文化のまち」の実現のために、安心して安全な微生物『EM』を活用し、環境に配慮したまちづくり【EMによるまちづくり推進プロジェクト】を平成17年6月に発足しました。

これまで畜舎の悪臭緩和、生ゴミの堆肥化、モデル地区活動、環境学習などのさまざまな分野で応用され成果を上げています。

これからもEMを活用したまちづくりを展開していきます。

To build a "vibrant city of wealth where nature and people coexist in harmony, and history, education, and culture are rich and profound", Uruma City launched the "EM city design promotion project" in June 2005. EM (effective microorganism) is a safe and environmentally sensitive technology whose application has already achieved remarkable results in various fields such as alleviation of foul odor at stalls and composting of raw garbage. It is being studied at schools also.

We will continue to explore possible usages of EM that will improve our city.

EMとは…

言葉としての「EM」は有用微生物群の英語名、Effective Microorganisms (エフェクティブ・マイクロオーガニズムス) の頭文字から付けられた造語です。EMの形態は黒または茶色の液体状で、液中に複数の微生物を共生させた微生物資材です。

未来への架け橋

● 農 業

安全で安心できる農作物づくりを目指して

農作物の生育に大きな影響のある土づくりに「EM肥料ボカシ」や「EM活性液」等を活用し、またEMの忌避剤や液肥で農薬の軽減や化学肥料を抑えることが可能になります。



安心して美味しい農作物



無農薬のナス

● 畜 産

環境改善が高品質の食肉を提供できる

EMを活用した清潔な畜舎で育った豚は、生育が良くなるばかりではなく肉質も向上すると言われております。そのほかに養鶏にも活用されており、EMによる養鶏場の環境改善が質の良い卵の生産に期待されています。



EMの散布で悪臭軽減



健康な子豚たち

参考文献
地球を救う微生物EM TOSS出版株式会社

● **自治体**

環境にやさしい暮らしを實踐中

市内37のモデル地区でEM活性液を無料配布しており、家庭で掃除や菜園などで活用しています。また講習会では米のとぎ汁発酵液や廃油石鹸を作る事で、廃棄物の再利用と環境改善を図っています。



モデル地区でのボカシ作り



モデル地区での講習会

● **環境教育**

生活に欠かせない水資源への配慮

自然環境は地域の人々の生活や産業活動と深く関わっています。農業や畜産業、自治会や学校など地域全体の地道な活動が、最終的には河川や海などの環境浄化につながっています。



小さな行動が河川や海を綺麗にします



少しずつきれいになる河川



第五章

未来を担う 人づくり

Building People for the Future



未 来 を 担 う

001 学校教育

うるま市には現在、幼稚園20園（公立18園、私立2園）、小学校22校、中学校13校があります。本市の学校教育は、児童生徒一人ひとりがこれからの社会変化に主体的に対応できる資質や能力を養うため、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成に努めています。

小規模学校におきましては、その特性を活かし、地域に根ざした創意ある教育課程を編成・実施し、少人数・複式学級における学習指導の改善・充実を図るとともに、合同学習・集合学習・交流学習を積極的に推進しています。

また、幼稚園教育につきましては、幼稚園教育要領に基づいて、各幼稚園の実態に即した教育課程を編成するとともに年間指導計画の改善・充実により、自主及び自律の精神の芽生えを培う幼稚園教育を推進しています。

これからの教育は、学校・家庭・地域社会・行政が一体となった施策が必要であり、保護者や地域社会との連携や地域人材の活用など「開かれた学校づくり」にも取り組んでいます。

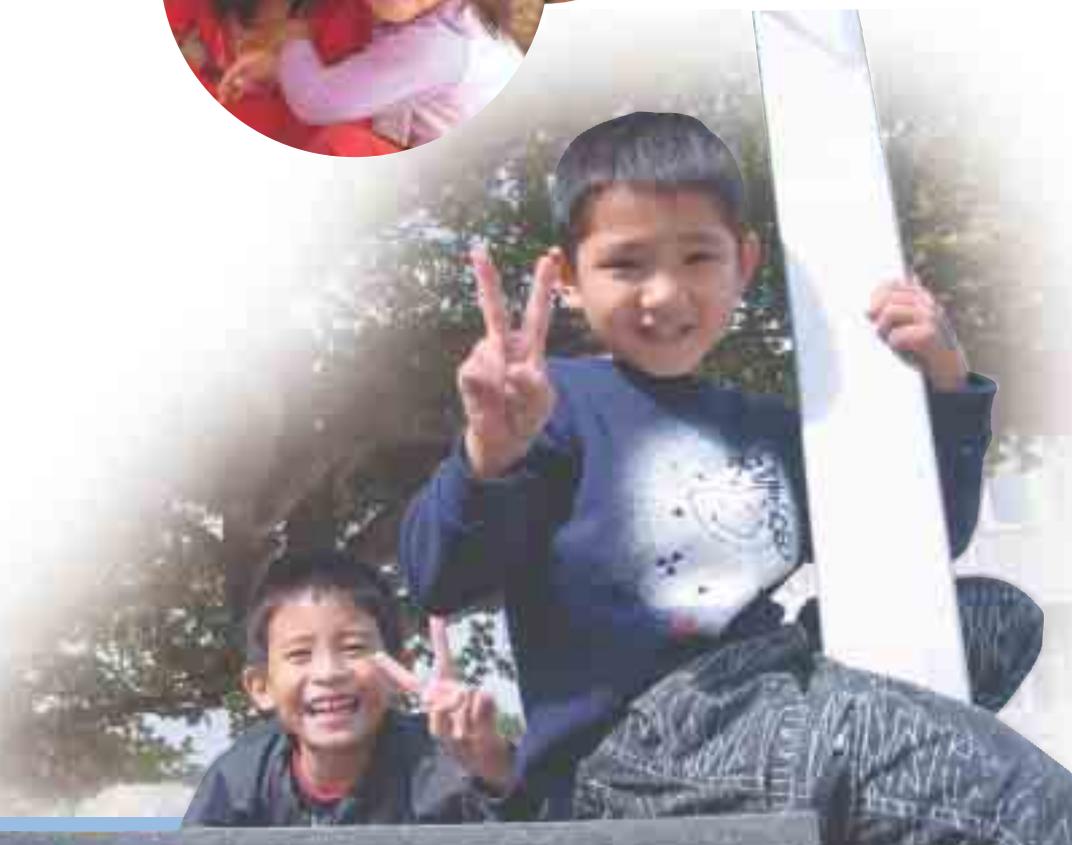


学校・家庭・地域・行政が一体となった教育。子どもたちの笑顔が輝くほど、まち全体が明るくなります。





づ く り



School Education

There are 20 kindergartens (18 public, 2 private), 22 elementary schools, and 13 junior high schools in Uruma City. The children are taught how to think for themselves - the abilities to live - to acquire tools to cope with the changing society in a responsible manner.

Small schools implement their own creative curriculums that are deeply rooted in the region, and practice small and sometimes combined classes for improved instructional efficiency. Exchanges among schools are strongly encouraged as well.

As for kindergarten education, all curriculums are designed based on the instructional guidelines created by the government, but each kindergarten arranges its curriculum to meet its particular operational and educational needs. Children are taught according to the one year instructional plan that aims to instill a sense of independence, responsibility and self-direction.

Education today must be a cooperative effort among the school, family, local community, and government.

We are working with parents and local communities, and actively recruiting local talents, to build schools that have strong ties to their communities.

002

社会教育

うるま市では、市民一人ひとりが“いつでも、どこでも、だれでも”学べる学習環境を整備し、市民の多様なニーズに応じた生涯学習を支援するとともに、社会教育関係団体の指導・育成に努め、世代を超えて学びあう生涯学習のまちづくりに努めています。

中央公民館や地区公民館を拠点として、各種講座・教室・学級など学習機会の拡充を図り、市民自ら学習する意欲と能力を培い、心豊かな人間性の伸長・資質の向上に努めています。また、社会体育については、市民が日々健康な生活ができるよう各種スポーツ教室の開催をはじめ、指導員の養成やレクリエーション団体、マリンスポーツ団体の活性化を図り、生涯スポーツ社会の実現と市民に夢と感動を与える競技スポーツの推進に努めています。

Social Education

Uruma City strives to create an environment in which any citizen can learn whenever and wherever he wants, and one example of this is the city's support of continued education programs that serve the varying needs of the citizens. The city is committed to assist the development of social education organizations to create a learning environment for all generations.



生涯を通じて行う趣味やスポーツは、人生をより良く充実したものにしてくれます。若い人からお年寄りまで世代を越えて行う生涯学習をサポートします。





うるま市には、優れた文化財・伝統芸能が残されています。先人たちが大切に育んできた地域文化は、そこに住む人々に誇りと連帯感を与えてくれます。



003 地域文化

文化的財産を保護・継承し、郷土の歴史・文化・自然を見つめなおすことは、市民の誇りや連帯感を高めるとともに本市の魅力づくりにもなります。本市では、世界遺産に登録されている勝連城跡を中心に整備事業を推進し、歴史的環境の保全に努めています。

また、市指定の無形文化財の支援や、地域で守られている文化財の指定、エイサーや獅子舞など市内外へ誇れる民俗芸能・伝統芸能の保存継承に努めています。

本市の文化活動の拠点となる市民芸術劇場・石川会館・きむたかホールは、文化協会をはじめとする各地域の文化活動団体等と連携を図ることで、地域特有の民俗芸能や伝統芸能の保存・継承・発展に大きな役割を果たしています。

Regional Culture

Uruma City is working to preserve historic sites and its proud World Heritage site, the Katsuren Castle Remains.

The city is also committed to the preservation of city-designated important intangible cultural heritages, the designation of regional cultural properties, and the preservation of folk performing arts and traditional performing arts such as Eisa dance and lion dance.

004

保健医療・福祉

本市では、「やすらぎとふれあいが支える健康・福祉づくり」を基本方針として、市民が健康で明るく元気に生活できる社会の実現を目指しています。母子保健事業、老人保健事業、予防接種事業、精神保健対策、結核予防対策などを関係機関と連携を図りながら推進しています。

高齢者福祉については、高齢者が健康で生きがいのある老後を営むことができるように、機能回復訓練やサークル活動等、総合的な福祉サービスを展開しています。また、障害者(児)福祉、児童福祉、母子・寡婦福祉、子育て支援、労働者福祉についても支援体制の強化や施設整備に取り組んでいます。さらに、このような多様な福祉需要に対応するために、社会福祉協議会との連携により民間福祉団体の育成強化にも努めています。

Health Care and Social Welfare

Uruma City's basic policy on health care and welfare is to create a society where citizens can live happily and free of health concerns – health care and welfare founded on comfort and communication.



市民一人ひとりが健康で安全な生活を送れるよう、保健・医療・福祉の連携に努めています。

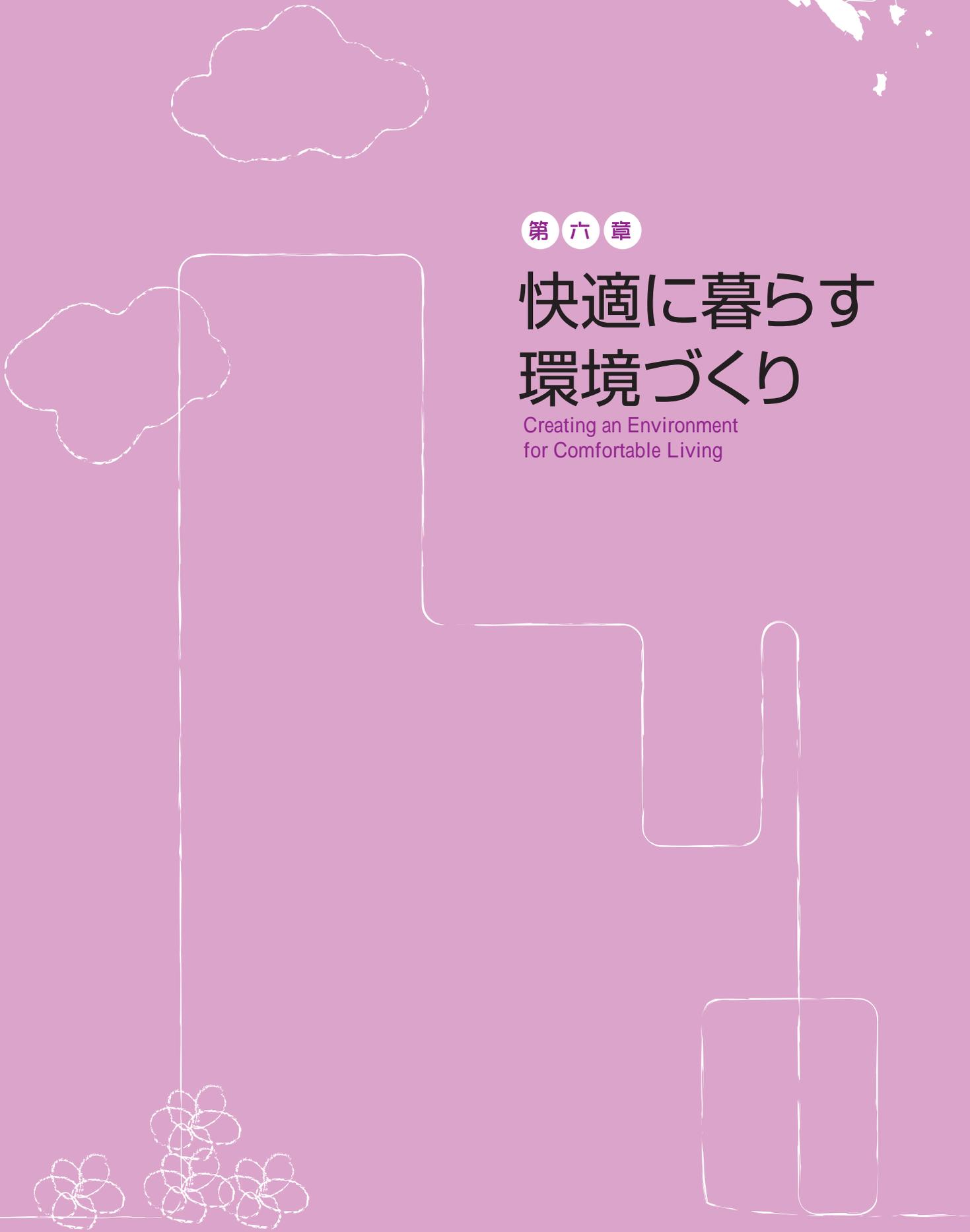




第六章

快適に暮らす 環境づくり

Creating an Environment
for Comfortable Living





都市環境

街並みや緑化になどに考慮した景観づくりをめざします。

沖縄本島のほぼ中央に位置し、沖縄本島の北部圏域、南部圏域を結ぶ地理的・地形的条件に恵まれていることから、沖縄自動車道の石川インターチェンジや沖縄北インターチェンジからのアクセスにより市民の生活圏の拡大のみならず、沖縄観光の拠点的役目を果たしています。

本市はちょうど金武湾を囲むように細長い地形となっており、各地域を地形、都市機能、地域資源等で共通要素をもつ7つの地域（北西地域、北部市街地地域、北東海岸地域、中部市街地地域、南部海岸地域、南部市街地地域、島しょ地域）を設定し、将来の地域別のまちづくりを進めています。

今後、沖縄県の中核都市としての役割を担うため、市内外を連絡する国道329号や主要地方道などの既存道路と市循環道路を中心とした主要道路網の整備を推進し、災害時対策、交通渋滞の解消、買物など日常生活の利便性の向上等を踏まえた生活道路ネットワークの形成を図ります。

歴史・文化、自然を生かした個性ある都市景観の形成

魅力ある市街地や美しい集落環境を生み出すためには、まち並みや緑化などに配慮した景観づくりが大切です。良好な自然や歴史資源を生かした美しい景観を守り育成するため、市民の意識を高め、美しい街並み景観の形成を図ります。

Urban Environment

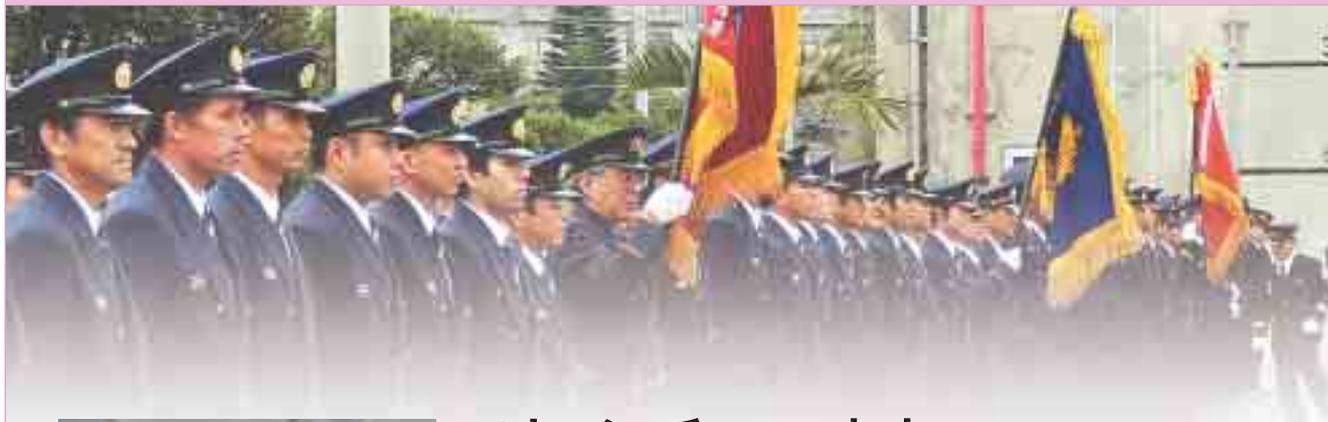
Uruma City, to fulfill its role as one of the major cities of Okinawa Prefecture, will upgrade its primary land transportation network by building new roads and improving the conditions of existing roads, including Route 329 that runs through the city and many other roads that link Uruma and other municipalities. The upgraded network will have better measures against disasters, reduce traffic congestion, and offer a dramatic increase in convenience and efficiency.





Living Environment

Making of Uruma



生活環境

台風や地震などあらゆる災害を想定し、常に市民の安全を考えています。

市民の生命と財産を守るためには、災害に強いまちづくりを進めていくことが大切です。消防行政については、市民の生命・身体・財産を火災から擁護するとともに、自然災害などを防除し被害を軽減していくため消防施設の整備・拡充を図っています。また、石油コンビナート地域における自主保安体制および危険物施設の安全対策の充実強化、防火思想の普及高揚を図っています。

年々増加する救急業務に対応するため、救急救命士の養成、救急隊員の研修及び各種訓練に努めるとともに、救急効果の向上を図るため地域住民に対する応急手当の講習会を実施しています。交通安全対策に

ついては関係機関や団体と連携し、交通安全思想の普及や交通道德の啓発を推進しています。

また、快適な生活環境や自然環境を守るため、工場や畜舎等の施設及び生活排水などの河川流入による水質汚染濁の測定その他、監視等パトロールの強化を図るなど指導體制を確立し、市民の健康保護と生活環境の保全に努めています。公共下水道については快適で潤いのある豊かな生活環境を確保するため、普及と接続率の向上に努めています。ごみ処理については、ごみの減量化と再資源化を図るために、ごみ袋の指定制やごみの分別等により循環型社会の構築に取り組んでいます。

Living Environment

To protect the lives and assets of its people, it is important that a city must be built to sustain disasters.

Uruma City is implementing measures to protect the lives and assets of its people against disasters, and is building and improving fire protection facilities to alleviate possible damages from natural disasters.





Housing Environment

Making of Uruma



住居環境

みなさまが安心して過ごせる環境をめざして

快適で暮らしやすい 住環境の整備

市民が身近にスポーツやレクリエーションを楽しめる場としての公園・緑地を整備推進し、周辺地域の土地利用に配慮した土地の集約化に努めます。

市内各地に散在する個別の墓地等については、周辺の環境に配慮した墓地公園等の整備に努めます。

Housing Environment

Effective use of land, environmentally conscious buildings that harmonize with their natural environment, and all barrier-free rooms for senior citizens and the physically disabled – Uruma City is working to improve the housing environment for its people to provide comfort and safety.

本市には現在、市営住宅446戸、県営住宅1,377戸、公社住宅56戸の公営住宅があり、住宅の質の向上や良好な住宅環境の形成に努めています。今後は、需要をみながら適正に供給していきます。公営住宅等の建替えにあたっては、土地の有効利用、自然環境との共生・共存、景観への配慮、全室バリアフリー化など高齢者や障害者にも住みやすい安全で快適な住環境の整備に努めています。

安慶名土地区画整理事業については、都市の再生を目指した快適で暮らしやすい住環境の整備に取り組んでおります。

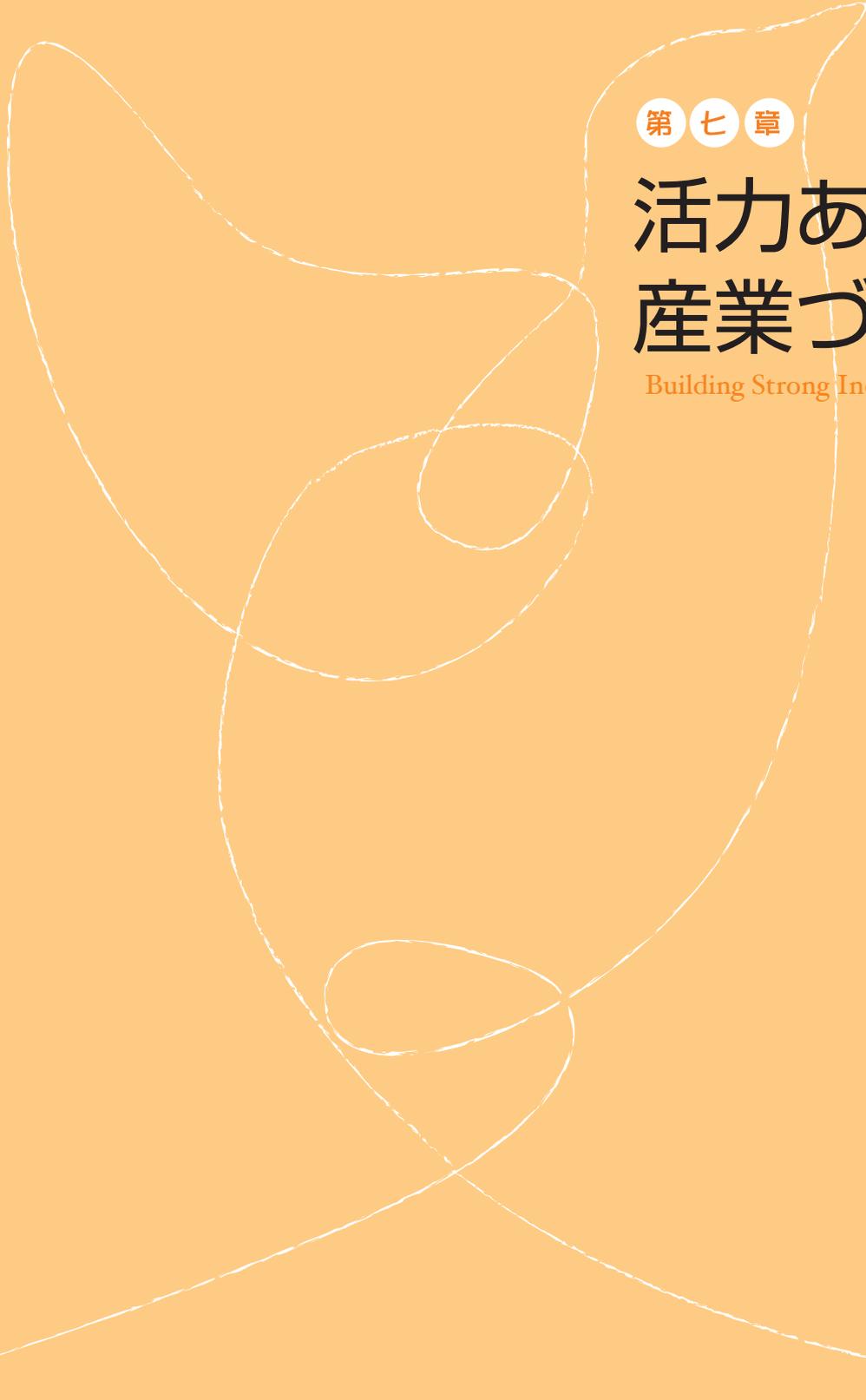




第七章

活力あふれる 産業づくり

Building Strong Industries



のうぎょう

農業

Agriculture



Harvesting the Future – Promotion of Agriculture and Dairy Farming

Agricultural items raised and harvested in Uruma City come in a variety – sugar cane, flowers, vegetables, fruits, beef, and pork among others. Particularly large is the production of ornamental plants such as chrysanthemum and western orchid, as the city is one of few areas in Okinawa that produces and ships flowers. In order to effectively promote agriculture and farming villages and bring out the best of their regional specialties, the city will take measures to improve farmland functions by building agricultural infrastructure such as harvesting ground and roads, training young farmers, and encouraging farmers to incorporate their business.

Through this process the city will identify new specialty goods that best reflect the region's distinct character, and also brand and expand the sales network of existing specialty goods (carrot, tea, butter bean, gumbo, flowers, etc.), to infuse a new life into the city's agriculture and develop it as a whole.

Branding and the expansion of sales network are also critical in dairy farming as well. The city is also committed to take measures to reduce air/water pollution and other environmental problems, while considering the living environment of its people for further development.

活

力

あ

ふ

れ

る

すいさんぎょう

水産業

Fisheries

豊かな海を育てる水産業の振興

本市の水産業は、県内有数のもずく生産拠点として発展するなど、活性化を見せておりますが、漁業経営の安定化を図るため水産物加工施設及びその他の水産業関連施設の拡充・推進が必要です。もずくや海ぶどう等のうるま市を代表する特産品の消費拡大のためのブランドとしての浸透化や販路拡大を図り、より安定した漁業経営を促進しています。

海面漁業では、獲る漁業からつくり育てる漁業への転換や、沿岸漁業との

組み合わせなど資源管理型漁業を推進し、水産経営の安定化を図ります。

併せて、水産業を担う人材を確保・育成し、水産業の活性化を推進します。

水産経営を安定化させるための漁港等の基盤整備を推進するとともに、海域の環境を保全するため、赤土流出防止対策等を促進することによって、藻場や漁場の保全に努めます。

また、漁業者の海に関する知識を活用し、観光・リゾート産業との連携を図り、新たな水産業の振興を推進します。





明日の豊かさを担う 農業・畜産の推進

本市の農業は、サトウキビをはじめ花き、野菜、果樹、肉用牛、養豚など多くの作目が生産されています。特にキクや洋ランなどの観葉植物の生産が大きく、県下でも有数の花き生産・出荷地区になっています。

地域の特性に応じた重点的な農業・農村の振興を図るため、農用地機能を高めるためのほ場や農道等の農業生産基盤の整備、後継者や担い手の育成や企業化・法人化等により農業の推進を図ります。また、地域の特性を生か

した特産物の創出や現在の特産物(ニンジン・お茶・インゲン・オクラ・花き等)のブランド化および販路の拡大により、農業全体の活性化と魅力ある農業を展開します。

畜産業についても、ブランド化および販路の拡大等による活性化を図るとともに、悪臭・水質汚濁等の環境問題への対応や地域住民の生活環境に配慮した対策を推進するなど、さらなる発展のために施策の展開を図っていきます。



産

業

づ

く

り

。



Living with the Fertile Sea - Promotion of Fisheries

Fisheries in Uruma City are showing signs of growth as the city has developed into one of few mozuku seaweed production areas in Okinawa. However, further promotion and expansion are necessary to bring stability to the industry, as it still needs processing facilities and other related facilities.

Through branding and the expansion of the sales network the city aims to increase sales of its specialty goods such as mozuku seaweed and sea grape, and bring stability to the industry.

The industry is making a shift from fishing to cultivation and steering itself to promote sustainable fisheries for increased stability.

Training has to be conducted to secure and develop human resources that will take the city's fisheries into the next generation and beyond. Infrastructure has to be built to bring management stability. Last but not least, measures will be taken to protect and preserve the sea environment, like preventing red soil run-off and keeping fishing grounds in good conditions.

Fishery operators' knowledge of the sea will be fully utilized in working with the tourism and leisure industry – and to promote fisheries in a completely new way.

こうぎょう

工業

Industry



The Nakagusuku Bay Shiko Area is designated as a special free trade zone, and expectations run high for it to become a process-and-trade type industrial hub. A number of businesses in the Area deal with cutting-edge technologies in the fields of information technology, biotechnology, and environment, as they are positioned to be the key players of the "research core city".

Expectations are also high for manufacturers dealing in biotechnology like EM to make products that improve health and environmental conditions, since the city is trying to create a new industry under the theme of health and longevity, and also jumpstart its existing industries.

While the construction of the Uruma City IT Business Support Center has been completed, more facilities are being built to lure major communication companies and develop future entrepreneurs who have roots in the region. In order to create a new information and communication industry, revitalize local economy, and create more jobs, the city is building the Area to be one of the largest in the prefecture, equipped with communication infrastructure.

活

力

あ

ふ

れ

る

しょうぎょう

商業

Commerce

賑わいと活気にあふれる 商業・サービス業の振興

活気あふれる既成市街地の形成を念頭に商業環境の整備を図るため、各種の商業や産業の育成・誘致に努めています。コミュニティ空間やオープンスペース、公共的機能を充実させ、賑わいのある商業空間の創出を図り、魅力ある商業の集積を誘導していきます。さらに、経営基盤の強化、近代化、共同化を促進し後継者や各種団体の育成

に努めるとともに、イベント等の開催により、様々な情報を発信していきます。

また、観光産業は本市において大きな発展が見込まれる重要産業です。世界遺産の勝連城跡をはじめとする歴史・文化遺産、海浜等の数多くの観光資源を活用したオンリーワンの産業を目指しています。



特別自由貿易地域に指定されている中城湾港新港地区においては、情報産業をはじめ各種産業立地による加工交易型産業の拠点形成が期待されています。中には、ITやバイオテクノロジー、環境など先端的な業種もあり、リサーチコアシティの中核となるよう位置づけています。EMなどバイオテクノロジーを活かした健康や環境に寄与する製造業については、健康・長寿をテーマとした新産業の創出と工業の活性化を進め

ている本市の特色ある産業として期待されています。

うるま市IT事業支援センター建設事業、大規模通信事業者の誘致と地域に特化した事業者の育成を目的として、施設整備を行っています。新たな情報通信産業を創出し、地域の活性化と雇用拡大を図るため、県内トップクラスの規模と通信インフラを備える施設として整備を行っています。



産

業

づ

く

り

。

。



Bustling Businesses Abound - Promotion of Commerce

In order to improve the city's commercial environment and its existing business districts, we are taking measures to develop and lure various businesses and attract investments. Community spaces will be built so that people can get together and interact, creating a bustling commercial environment to which businesses congress.

The city will also make its commitment to strengthen its management base, promote modernization and sharing of information and assets, develop successors and various organizations. It will also organize events, etc. and make all sorts of information accessible to the public.

The tourism industry is expected to grow dramatically in the coming years and is therefore is considered an important industry of the city. The city's rich tourism resources include a World Heritage site in the Katsuren Castle Remains, a host of historic and cultural heritages, beautiful sandy beaches, and many more. Uruma City is striving to create values that cannot be experienced anywhere else.

国際交流

International Exchange



インターネット等の普及により国際化・情報化が急速に進展している現在、異文化を理解し、互いに尊重しあう社会を構築することが重要です。国を越えた民間レベルの交流は、人と人との相互理解につながり平和な世界の礎になります。

本市では学校教育や社会教育等と連携し、国際性豊かな視野の広さと、豊かな情報及び情報手段を主体的に

操作・活用できる人材を育成するために、外国人英語指導助手の活用、英語ストーリーコンテストの開催、また小学校における英語活動の充実、中学生短期留学派遣事業の充実に努めています。

また、大洪水支援をきっかけに、中国黒龍江省大慶市との交流も進めています。

In this day and age, the widespread use of the Internet is accelerating internationalization and digitalization, making it important to build a society in which people of different cultural backgrounds understand and respect one another. Intercultural exchanges can promote mutual understanding and serve to become a cornerstone of peace in the world.

Uruma City is working with schools and organizations to cultivate children to have a global vision and know-how to utilize information. Some of the efforts include the hiring of native English speaking teaching assistants, organizing English story-telling contests, enhancing English-related activities at elementary schools, and offering short-term study abroad programs for junior high school students.

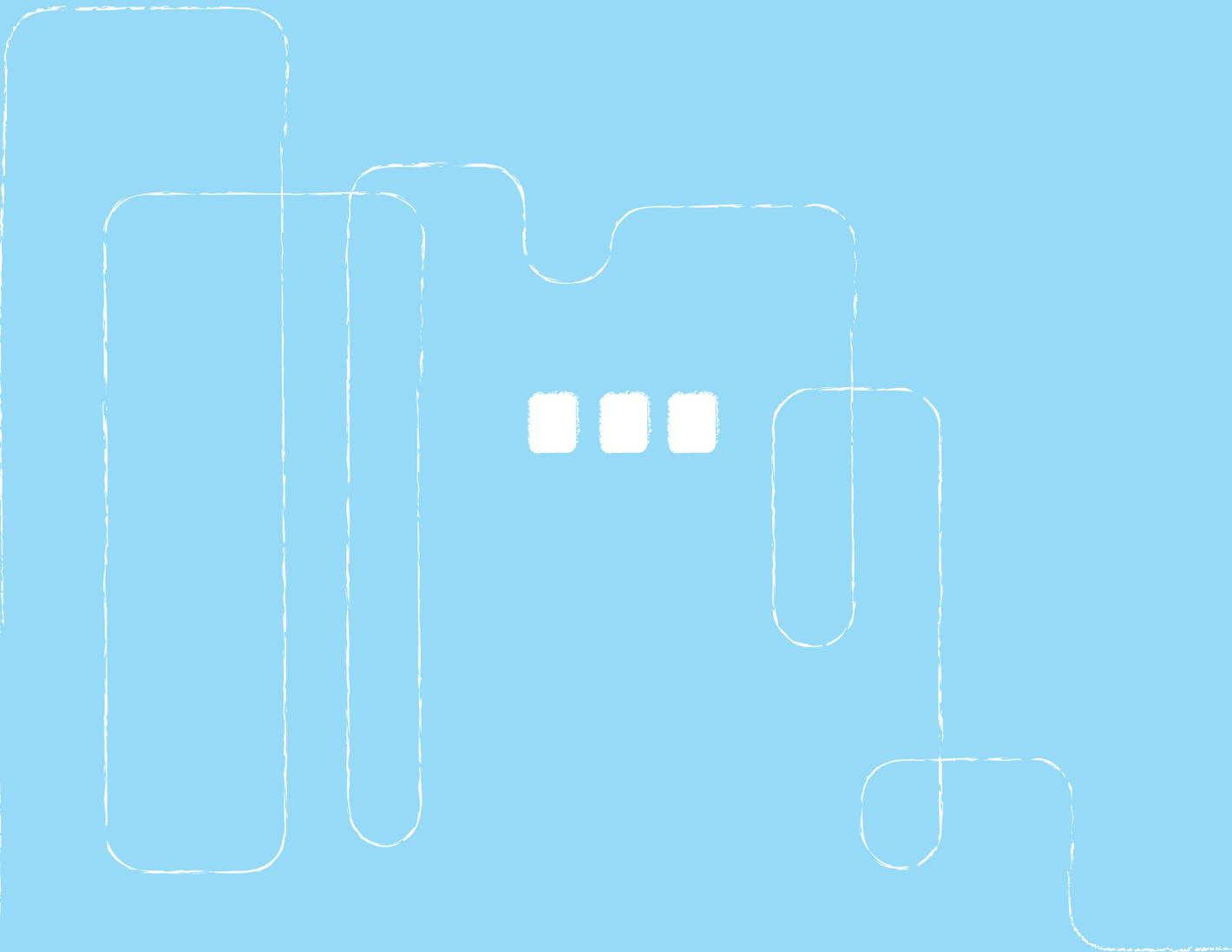
Uruma City also has ties with Daqing City of Heilongjiang Sheng, China, which began after Uruma City came to the aid of Daqing City when it was struck with a devastating flood.



第 八 章

行政・議会

Administration & City Council





行政・議会

Administration & City Council
Administration & City Council
Administration & City Council

市三役



市長
知念 恒男



助役
石川 邦吉



収入役
松野 義勝

うるま市の行政

地方分権時代を迎えた現在、「三位一体の改革」の実施に伴い、地方財政が深刻な影響を受けるなか、少子高齢化の進展、福祉・教育問題、環境問題など、自治体を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。

これからの地方分権時代にふさわしい自立した行政体制として、市民の満足度を高め、個性的で魅力的なまちづくりを推進していくためには、財政の健全化を維持しつつ、行政と市民がそれぞれの役割と責任を担いながら、連携と協力を進めていくシステムの構築が必要です。

このような観点から、「うるま市行政改革大綱」に基づき、「ジリツ(自立・自律)した市民と協働でつくりあげる行政」を基本理念に、簡素で効率的な行政を実現するため、新しい視点に立って不断に行政改革に取り組むとともに、市民と行政のパートナーシップの確立を推進し、市民に開かれた行政を目指していきたいと考えています。

Uruma City Administration

While decentralization and major fiscal reform are seriously affecting the finances of local governments, the environment that surrounds the governments continue to be harsh, with issues like declining birth rates, aging of population, social welfare, education, and environment needing attention.

To survive this age of decentralization as an independent administrative body, the city must satisfy the needs of its people and build the city with a character and luring appeal. However, to do this the city has to maintain its fiscal balance, and create a system in which the government and the people can cooperate and work together as one, with specific roles and responsibilities.

Taking this into consideration, Uruma City is taking steps to be more simple and efficient based on the Uruma City administrative reform guidelines with its basic policy of being a government that works with its independent and proactive citizens. With a new vision, we will continue with our administrative reform unrelentingly and team up with the citizens to form a strong partnership, and together create a government that is accessible and resourceful to anyone.



本庁



石川庁舎



勝連庁舎



与那城庁舎

議長・ 副議長

議長
崎原 弘副議長
宮城 茂

うるま市の議会

市議会は、市民の代表によって選ばれた議員によって構成され、行政運営の基本的な重要な事項について審議し決定する機関です。

市議会は年4回(3月・6月・9月・12月)開かれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。本会議は一般に公開され、個人でも団体でも傍聴することができます。

議会では、数多い議案等を専門的な立場で効率的に審議を行うために、四常任委員会(企画総務・建設・教育福祉・市民経済)と議会運営委員会、特別委員会を設置しています。議員は、市長から提案される議案だけでなく市民の要望である請願や陳情などの審議にあたります。

Uruma City Council

The city council is comprised of elected representatives, an organ that deliberates and decides on important administrative issues.

The council meets four times a year (March, June, September, and December) for regular sessions but can meet for extraordinary sessions when necessary. Sessions are open to the public, and any individual or group may attend and observe.

The council has four standing committees (planning and general affairs, construction, education and welfare, and civil economics) as well as a council steering committee and special committee to deliberate professionally on numerous issues in an efficient manner. The council not only deliberates issues submitted by the mayor, but also appeals and petitions concerns brought to the table by citizens.



うるま市には 63の自治会があります。



市役所本庁周辺



自治会プロフィール



勝連庁舎周辺



うるま市には現在、63の自治会があります。長い歴史の時間の中で、
そこに暮らす人々は文化を守り伝統を受け継ぎ、
それぞれが個性ある自治会を創りあげていきました。



与那城庁舎周辺



Profiles



石川庁舎周辺



1 具志川 (ぐしかわ) 人口 4,848人 (男2,376人/女2,472人) 世帯数 1,568世帯	22 塩屋 (しおや) 人口 1,269人 (男649人/女620人) 世帯数 422世帯	43 東恩納 (ひがしおんな) 人口 1,386人 (男683人/女703人) 世帯数 497世帯
2 田場 (たば) 人口 4,283人 (男2,083人/女2,200人) 世帯数 1,447世帯	23 豊原 (とよはら) 人口 1,045人 (男512人/女533人) 世帯数 321世帯	44 美原 (みはら) 人口 742人 (男386人/女356人) 世帯数 311世帯
3 赤野 (あかの) 人口 1,454人 (男743人/女711人) 世帯数 484世帯	24 高江洲 (たかえす) 人口 792人 (男398人/女394人) 世帯数 266世帯	45 旭 (あさひ) 人口 2,623人 (男1,293人/女1,330人) 世帯数 837世帯
4 宇堅 (うけん) 人口 1,195人 (男607人/女588人) 世帯数 392世帯	25 前原 (まえはら) 人口 882人 (男436人/女446人) 世帯数 326世帯	46 平敷屋 (へしきや) 人口 4,028人 (男2,181人/女1,847人) 世帯数 1,363世帯
5 天願 (てんがん) 人口 1,377人 (男649人/女728人) 世帯数 565世帯	26 志林川 (しりんかわ) 人口 1,895人 (男898人/女997人) 世帯数 698世帯	47 内間 (うちま) 人口 1,257人 (男697人/女560人) 世帯数 433世帯
6 昆布 (こんぶ) 人口 1,682人 (男845人/女837人) 世帯数 656世帯	27 新赤道 (しんあかみち) 人口 2,105人 (男1,048人/女1,057人) 世帯数 683世帯	48 平安名 (へんな) 人口 4,572人 (男2,309人/女2,263人) 世帯数 1,427世帯
7 栄野比 (えのび) 人口 1,835人 (男948人/女887人) 世帯数 734世帯	28 みどり町一・二 人口 1,915人 (男940人/女975人) 世帯数 600世帯	49 南風原 (なえばる) 人口 3,396人 (男1,713人/女1,683人) 世帯数 1,188世帯
8 川崎 (かわさき) 人口 2,106人 (男1,048人/女1,058人) 世帯数 717世帯	29 みどり町三・四 人口 2,248人 (男1,095人/女1,153人) 世帯数 738世帯	50 浜 (はま) 人口 357人 (男199人/女158人) 世帯数 145世帯
9 西原 (いりばる) 人口 2,627人 (男1,315人/女1,312人) 世帯数 858世帯	30 みどり町五・六 人口 1,699人 (男821人/女878人) 世帯数 587世帯	51 比嘉 (ひが) 人口 220人 (男118人/女102人) 世帯数 112世帯
10 安慶名 (あげな) 人口 3,494人 (男1,691人/女1,803人) 世帯数 1,427世帯	31 曙 (あけぼの) 人口 2,878人 (男1,430人/女1,448人) 世帯数 1,084世帯	52 津堅 (つけん) 人口 609人 (男320人/女289人) 世帯数 278世帯
11 平良川 (たいらがわ) 人口 2,351人 (男1,180人/女1,171人) 世帯数 817世帯	32 南栄 (なんえい) 人口 857人 (男434人/女423人) 世帯数 343世帯	53 照間 (てるま) 人口 1,197人 (男635人/女562人) 世帯数 393世帯
12 上平良川 (うえたいらがわ) 人口 2,775人 (男1,380人/女1,395人) 世帯数 978世帯	33 城北 (じょうほく) 人口 1,472人 (男758人/女714人) 世帯数 572世帯	54 与那城西原 (よなしろにしはら) 人口 1,615人 (男797人/女818人) 世帯数 537世帯
13 兼箇段 (かねかだん) 人口 1,611人 (男820人/女791人) 世帯数 530世帯	34 中央 (ちゅうおう) 人口 1,138人 (男562人/女576人) 世帯数 451世帯	55 与那城 (よなしろ) 人口 1,558人 (男784人/女774人) 世帯数 477世帯
14 米原 (よねはら) 人口 2,169人 (男1,082人/女1,087人) 世帯数 705世帯	35 松島 (まつしま) 人口 1,028人 (男529人/女499人) 世帯数 428世帯	56 饒辺 (のへん) 人口 1,428人 (男754人/女674人) 世帯数 450世帯
15 赤道 (あかみち) 人口 4,748人 (男2,351人/女2,397人) 世帯数 1,762世帯	36 宮前 (みやまえ) 人口 870人 (男428人/女442人) 世帯数 368世帯	57 屋慶名 (やけな) 人口 4,488人 (男2,326人/女2,162人) 世帯数 1,492世帯
16 江洲 (えす) 人口 2,899人 (男1,472人/女1,427人) 世帯数 1,005世帯	37 東山 (あがりやま) 人口 1,609人 (男825人/女784人) 世帯数 712世帯	58 平安座 (へんざ) 人口 1,506人 (男767人/女739人) 世帯数 537世帯
17 宮里 (みやざと) 人口 3,279人 (男1,619人/女1,660人) 世帯数 1,255世帯	38 港 (みなと) 人口 1,265人 (男629人/女636人) 世帯数 487世帯	59 桃原 (とうばる) 人口 276人 (男142人/女134人) 世帯数 116世帯
18 喜仲 (きなか) 人口 2,735人 (男1,353人/女1,382人) 世帯数 950世帯	39 伊波 (いは) 人口 2,238人 (男1,102人/女1,136人) 世帯数 772世帯	60 上原 (うえはら) 人口 307人 (男168人/女139人) 世帯数 119世帯
19 上江洲 (うえす) 人口 2,173人 (男1,079人/女1,094人) 世帯数 731世帯	40 嘉手苺 (かでかる) 人口 921人 (男443人/女478人) 世帯数 371世帯	61 宮城 (みやぎ) 人口 215人 (男117人/女98人) 世帯数 99世帯
20 大田 (おおた) 人口 1,608人 (男819人/女789人) 世帯数 566世帯	41 山城 (やましろ) 人口 990人 (男527人/女463人) 世帯数 343世帯	62 池味 (いけみ) 人口 116人 (男57人/女59人) 世帯数 55世帯
21 川田 (かわた) 人口 874人 (男429人/女445人) 世帯数 288世帯	42 石川前原 (いしかわまえはら) 人口 2,996人 (男1,467人/女1,529人) 世帯数 958世帯	63 伊計 (いけい) 人口 356人 (男182人/女174人) 世帯数 156世帯

資料編

URUMA-CITY DATA



統計から見る市民の暮らし <small>Life of citizens Looked through statistics</small>	72
土地および気象 <small>Land and Weather</small>	73
人口 <small>Population</small>	74
財政 <small>Finances</small>	75
農業 <small>Agriculture</small>	76
教育・福祉 <small>Education, Welfare</small>	77
市内施設 <small>Facilities</small>	78
文化財 <small>The Cultural Assets</small>	79
行政組織・機構図 <small>Administrative Organization Chart</small>	80

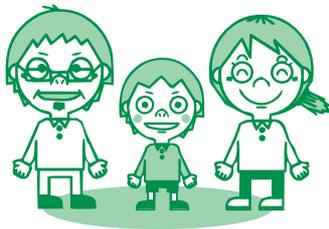


welcome to Uruma-City!



統計から見る 市民の暮らし

Life of Citizens Looked
through Statistics



Data File #001

人口密度
(平成18年2月末)

1km²に
1,354人



世帯数
(平成18年2月末)

1世帯に
2.84人



転入
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
12.09人



転出
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
11.44人



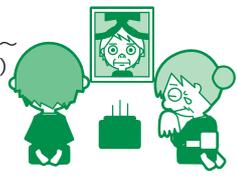
出生
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
3.8人



死亡
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
2.14人



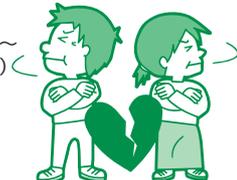
結婚
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
4.2組



離婚
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
1.41組



火災
(平成17年4月～
平成18年1月)

10日に
1件



緊急搬送人数
(平成17年4月～
平成18年1月)

1日に
8人



市職員
(平成18年3月現在)

市民107人に
1人



市税
(平成17年度)

市民1人当たり
66,538円



市の予算
(平成17年度)

市民1人当たり
380,096円



土地および気象

Land and Weather

位置・面積・範囲



北緯26°22'45″ 東経 127°51'27″
 最も高い場所 石川岳 (204m)
 最も長い川 天願川
 (流域面積 31.61km²)
 (流路延長 12.20km)

面積 86.01km²
 極東 与那城伊計 東経 128°00'15″
 極西 石川嘉手苅 東経 127°47'17″
 極南 勝連津堅 北緯 26°14'29″
 極北 石川 北緯 26°27'01″



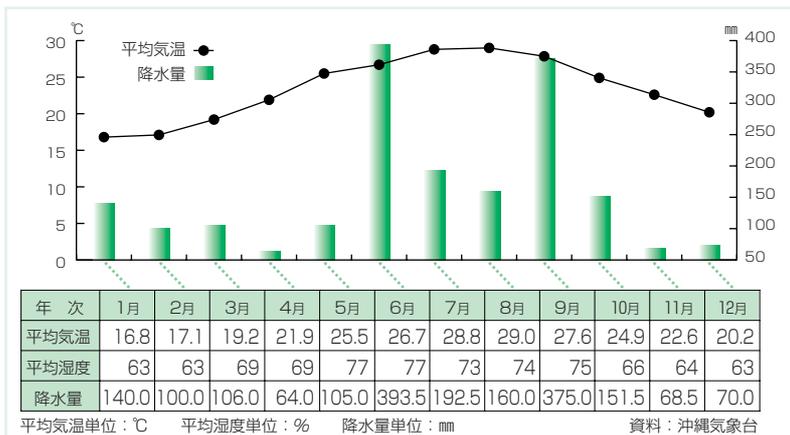
Data File #002

基地面積

区分	市町村面積 (ha)	施設名及び施設面積 (ha)	市町村面積に占める割合%	全施設面積に占める割合%	備考	
基地所在市町村	128,079	23,728.80	18.5	100		
全県	227,194	23,728.80	10.4	100		
うるま市	8,600	全体	662.8	7.7	2.8	
		キャンプ・コートニー	134.8	1.6	0.6	
		陸軍貯油施設	70.4	0.8	0.3	タンクファーム
		嘉手納弾薬庫	187.7	2.2	0.8	
		キャンプ・マクトリアス	37.9	0.4	0.2	
		天願棧橋	3.1	0.0	0.0	
		キャンプ・瑞慶覧	0.0	0.0	0.0	300m ²
		ホワイト・ビーチ	156.8	1.8	0.7	
		津堅島訓練所	1.6	0.0	0.0	
		計	592.3	6.9	2.5	
		浮原島訓練場	25.4	0.3	0.1	米軍共同使用
		海上自衛隊沖縄基地隊	8.7	0.1	0.0	
		陸上自衛隊勝連分屯地	19.2	0.2	0.1	
		海上自衛隊送信所	17.2	0.2	0.1	
計	70.5	0.8	0.3			

注) 計数は、四捨五入によっているので符号しないことがある。
 参照 沖縄の米軍及び自衛隊基地(統計資料)(平成15年3月)
 沖縄県総務部知事公室基地対策室編集発行
 勝連町軍用地跡地利用計画(平成11年3月)
 具志川市と基地(平成13年度版)
 沖縄の米軍基地(平成15年3月) 沖縄県基地対策室

気温・降水量・湿度



人口

Population

Data File #003

人口動態

区分	人口増加数			自然動態		社会動態		婚姻	離婚
	総数	自然	社会	出生	死亡	転入	転出		
具志川	587	442	145	834	392	3,241	3,096	456	187
石川	121	115	6	255	140	1,153	1,147	281	113
与那城	-80	-24	-56	100	124	579	635	87	29
勝連	76	48	28	150	102	748	720	87	46
計	704	581	123	1,339	758	5,721	5,598	911	375

(平成16年4月～平成17年3月)

行政区別住民登録人口

行政区	人口	行政区	人口
1 具志川	4,848	33 城北	1,472
2 田場	4,283	34 中央	1,138
3 赤野	1,454	35 松島	1,028
4 宇堅	1,195	36 宮前	870
5 天願	1,377	37 東山	1,609
6 昆布	1,682	38 旭	2,623
7 栄野比	1,835	39 港	1,265
8 川崎	2,106	40 伊波	2,238
9 西原	2,627	41 嘉手苜	921
10 安慶名	3,494	42 山城	990
11 平良川	2,351	43 石川前原	2,996
12 上平良川	2,775	44 東恩納	1,386
13 兼箇段	1,611	45 美原	742
14 米原	2,169	46 南風原	3,396
15 赤道	4,748	47 平安名	4,572
16 江洲	2,899	48 内間	1,257
17 宮里	3,279	49 平敷屋	4,028
18 喜仲	2,735	50 津堅	609
19 上江洲	2,173	51 浜	357
20 大田	1,608	52 比嘉	220
21 川田	874	53 照間	1,197
22 塩屋	1,269	54 与那城西原	1,615
23 豊原	1,045	55 与那城	1,558
24 高江洲	792	56 饒辺	1,428
25 前原	882	57 屋慶名	4,488
26 志林川	1,895	58 平安座	1,506
27 新赤道	2,105	59 桃原	276
28 みどり町一二	1,915	60 上原	307
29 みどり町三四	2,248	61 宮城	215
30 みどり町五六	1,699	62 池味	116
31 曙	2,878	63 伊計	356
32 南栄	857	合計	116,487

(平成18年2月末)



財政

Finances

1人あたりの予算額 (歳出の内訳)

総務費

45,373円



民生費

106,751円



土木費

81,001円



公債費

29,216円



教育費

50,610円



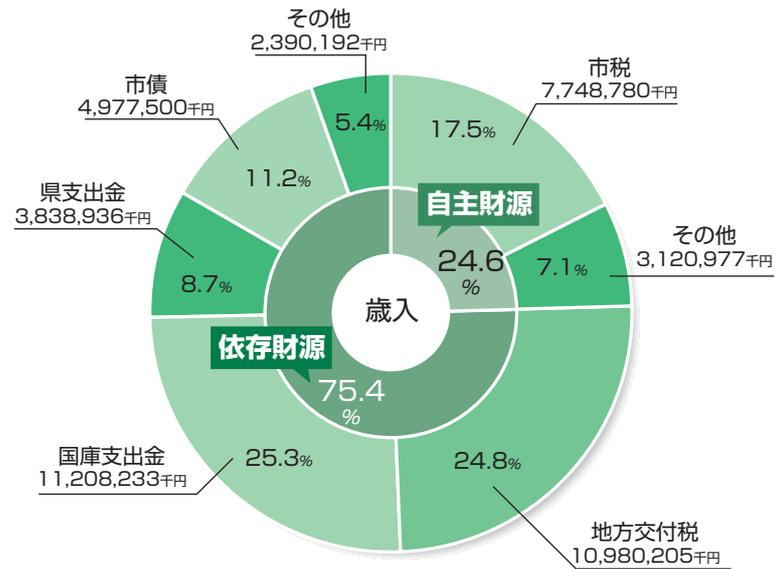
その他

67,145円



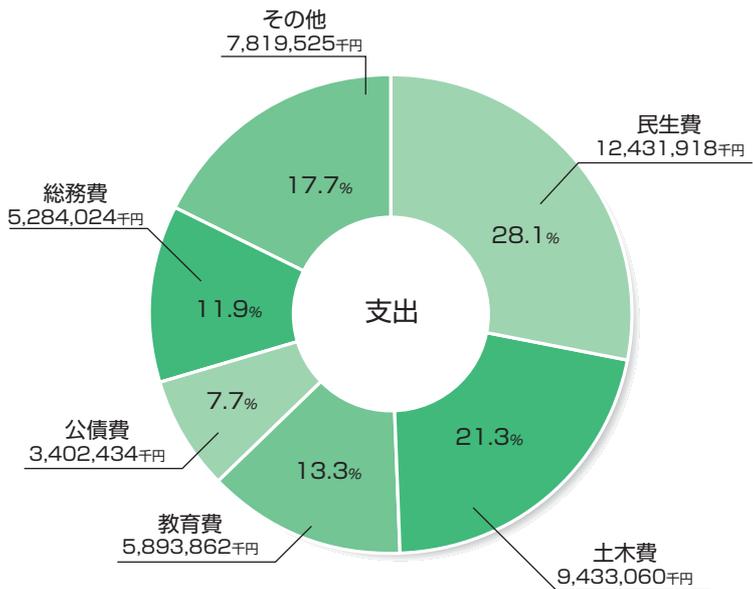
Data File #004

歳入予算 (平成17年度)

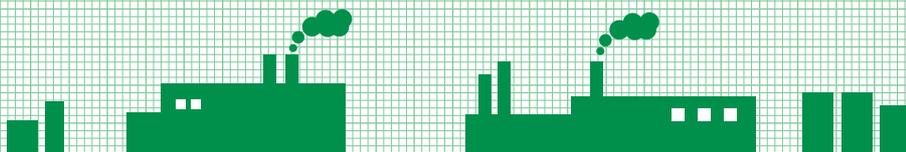


歳入 / **44,264,823千円**

支出予算 (平成17年度)



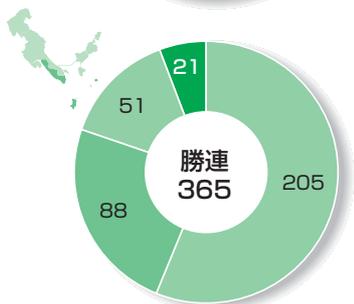
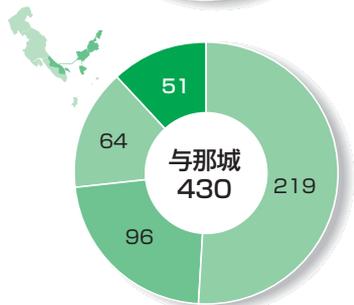
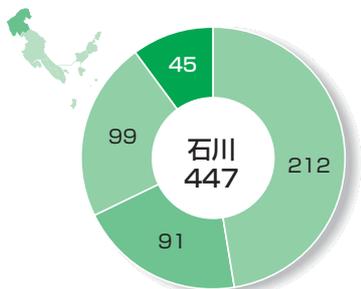
支出 / **44,264,823千円**



農業

Agriculture

経営耕地面積別農家数 (2000年)



資料:「2000年世界農業センサス」

Data File #005

平成16年 家畜の飼養農家数と頭羽数 (旧市町別)

市町	畜種	飼養農家数		頭羽数	
		戸数	頭数	頭数	羽数
具志川	肉用牛	71	1474	42	467
	乳用牛	1	32	1	24
	豚	30	11,901	20	10,277
	採卵鶏	62	13,464	23	543
石川	肉用牛	55	953	16	305
	乳用牛	—	—	—	—
	豚	10	3,284	15	2,363
	採卵鶏	1	12,500	1	800
与那城	肉用牛	—	—	—	—
	乳用牛	—	—	—	—
	豚	—	—	—	—
	採卵鶏	—	—	—	—
勝連	肉用牛	—	—	—	—
	乳用牛	—	—	—	—
	豚	—	—	—	—
	採卵鶏	—	—	—	—

農家数(戸)、頭羽数(頭)

資料:沖縄県農林水産部「家畜・家さん等の飼養頭羽数の調査」

平成15年 さとうきび収穫面積

市町	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)
具志川	133	8,260
石川	104	6,360
与那城	133	9,310
勝連	59	3,620

資料:「甘木資源作物調査」

平成15年 野菜の作付面積、収穫量

市町	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)
具志川	44	1,300
石川	15	338
与那城	10	191
勝連	38	960

資料:「野菜調査」

平成15年 個別農産物産出額 (上位5位)

()内単位:千万円

	1位	2位	3位	4位	5位
具志川	きく(88)	豚(56)	肉用牛(26)	洋ラン(鉢)(17)	さとうきび(17)
石川	豚(55)	きく(42)	洋ラン(鉢)(23)	さとうきび(13)	肉用牛(10)
与那城	葉たばこ(24)	さとうきび(18)	豚(16)	肉用牛(15)	かんしょ(7)
勝連	豚(23)	さとうきび(8)	きく(6)	にんじん(6)	肉用牛(5)

資料:「生産農業所得統計」



教育・福祉

Education and Welfare

Data File #006

幼稚園

施設名	電話
宮森幼稚園	964-2870
城前幼稚園	964-2871
伊波幼稚園	964-2980
与那城幼稚園	978-3130
南原幼稚園	978-4200
勝連幼稚園	978-4863
平敷屋幼稚園	978-4010
比嘉幼稚園	977-8255
津堅幼稚園	978-2141
川崎幼稚園	972-5239
天願幼稚園	973-5243
あげな幼稚園	972-5242
田場幼稚園	973-5240
具志川幼稚園	973-5241
兼原幼稚園	973-4053
高江洲幼稚園	973-5238
中原幼稚園	973-6280
赤道幼稚園	973-1217

小学校・中学校

施設名	電話
市立天願小学校	973-3359
市立高江洲小学校	973-3243
市立兼原小学校	973-3350
市立あげな小学校	972-3566
市立田場小学校	973-3364
市立中原小学校	973-6810
市立赤道小学校	973-1218
市立具志川小学校	973-3536
市立川崎小学校	972-3367
市立伊波小学校	964-2088
市立城前小学校	964-2086
市立宮森小学校	964-2077
市立比嘉小学校	977-8255
市立南原小学校	978-2225
市立勝連小学校	978-2222
市立平敷屋小学校	978-2223
市立宮城小学校	977-8311
市立桃原小学校	977-8177
市立与那城小学校	978-2221

施設名	電話
市立津堅小・中学校	978-2141
市立平安座小・中学校	977-8102
市立伊計小・中学校	977-7902

中学校

施設名	電話
市立高江洲中学校	973-3207
市立あげな中学校	972-3276
市立具志川東中学校	973-1212
市立具志川中学校	973-3355
市立伊波中学校	965-3384
市立石川中学校	964-2087
市立与勝中学校	978-2220
市立浜中学校	977-8148
市立与勝第二中学校	978-2648
市立宮城中学校	977-8322

高等学校

施設名	電話
沖縄県立前原高等学校	973-3249
沖縄県立具志川高等学校	973-1213
沖縄県立具志川商業高等学校	972-7140
沖縄県立中部農林高等学校	973-3578
沖縄県立沖縄高等養護学校	973-1661
沖縄県立石川高等学校	964-2006
沖縄県立与勝高等学校	978-5230

公立保育所

保育所名	定員	電話
うるま市立豊原保育所	60	973-4942
うるま市立安慶名保育所	90	972-3847
うるま市立石川保育所	90	964-2229
うるま市立勝連保育所	60	978-2111
うるま市立勝連第2保育所	60	休園
うるま市立勝連第3保育所	60	978-4209
うるま市立与那城第1保育所	60	休園
うるま市立与那城第2保育所	60	978-2456

児童館関係

施設名	電話
みどり町児童センター	972-6200
なかきず児童センター	974-1309
屋慶名児童館	978-6082
宮城児童館	977-7924
石川児童館(チャレンジ館)	964-6051



市内施設

Facilities

Data File #007

体育施設関係

施設名	電話
市具志川総合体育館	973-0230
市具志川総合グラウンド	973-0230
市具志川庭球場	973-0230
市具志川喜屋武 マーブ庭球場	973-0230
市具志川野球場	973-0230
市具志川グラウンドゴルフ場	973-0230
市具志川ゲートボール場	973-0230
市石川体育館	965-5121
市石川運動場	965-5121
市石川屋内運動場	965-5121
市石川庭球場	965-5121
市石川野球場	965-5121
市石川プール	965-3939
市勝連総合グラウンド	978-6040
市勝連B&G海洋センター・ 体育館・プール	978-6040
市与那城総合公園 陸上競技場	978-1047
市与那城多種目球技場	978-1047
市与那城庭球場	978-1047

消防署関係

施設名	電話
うるま市具志川消防署	973-4838
うるま市石川消防署	965-0831
うるま市与勝消防署	978-3283
平安座出張所	977-8999

関係公会堂

施設名	電話
うるま市民芸術劇場	973-4400
うるま市石川会館	965-5630
うるま市きむたかホール	978-2219

中央公民館及び地区公民館

施設名	電話
うるま市立中央公民館	973-5022
うるま市立石川地区公民館	964-3433
うるま市立勝連地区公民館	978-2227
うるま市立与那城地区公民館	978-6836



図書館及び資料館

施設名	電話
うるま市立中央図書館	974-1112
うるま市立石川図書館	964-5166
うるま市立勝連図書館	978-4321
海の駅あやはし館	978-8830
うるま市石川歴史民俗資料館	965-3866
うるま市海の文化資料館	978-8831
うるま市与那城歴史民俗資料館	978-3149

公園関係

施設名	電話
うるま市具志川野外 レクリエーションセンター	972-7722
うるま市 安慶名闘牛場 (観光課)	965-5634
うるま市 野鳥の森公園 (みどり推進課)	965-5620
うるま市民の森公園 (みどり推進課)	965-5620
うるま市 石川イベント公園 (みどり推進課)	965-5620
うるま市 勝連浦ヶ浜公園 (みどり推進課)	965-5620
うるま市 勝連ふれあいパーク (みどり推進課)	965-5620

その他官公署関係

施設名	電話
うるま市	
いちゅい具志川じんぶん館	982-4140
うるま市	
石川地域活性化センター	982-5254
うるま市青少年センター	978-2202
中部北環境施設組合	972-6619
うるま警察署	973-0110
石川警察署	964-4110
沖縄県警察学校	964-2788
具志川郵便局	973-3205
安慶名郵便局	974-4618
志林川郵便局	973-4340
東具志川郵便局	973-5080
石川郵便局	964-2042
石川城前郵便局	965-6866
石川東恩納郵便局	964-2529
与勝郵便局	978-2533
勝連郵便局	978-2442
平安座郵便局	977-8108
与那城郵便局	978-8425

文化財

Land and Weather

国指定文化財

種別：史跡



伊波貝塚

認定：昭和47年5月15日

種別：史跡



安慶名城跡

認定：昭和47年5月15日

種別：史跡



勝連城跡

認定：昭和47年5月15日

種別：史跡



仲原遺跡

認定：昭和61年8月16日

Data File #008

県指定文化財

番号	種別	名称	指定
1	有形文化財(工芸品)	三線翁長開鐘	昭和30年5月23日
2	有形文化財(工芸品)	三線真壁型	平成6年3月15日
3	有形文化財(古文書)	勝連間切南風原村文書	昭和52年7月11日
4	史跡	平安名貝塚	昭和31年10月19日
5	史跡	伊波城跡	昭和36年6月15日
6	天然記念物	チャーソ	平成3年1月16日
7	選択文化財	津堅島の唐踊	昭和53年3月24日

市指定文化財

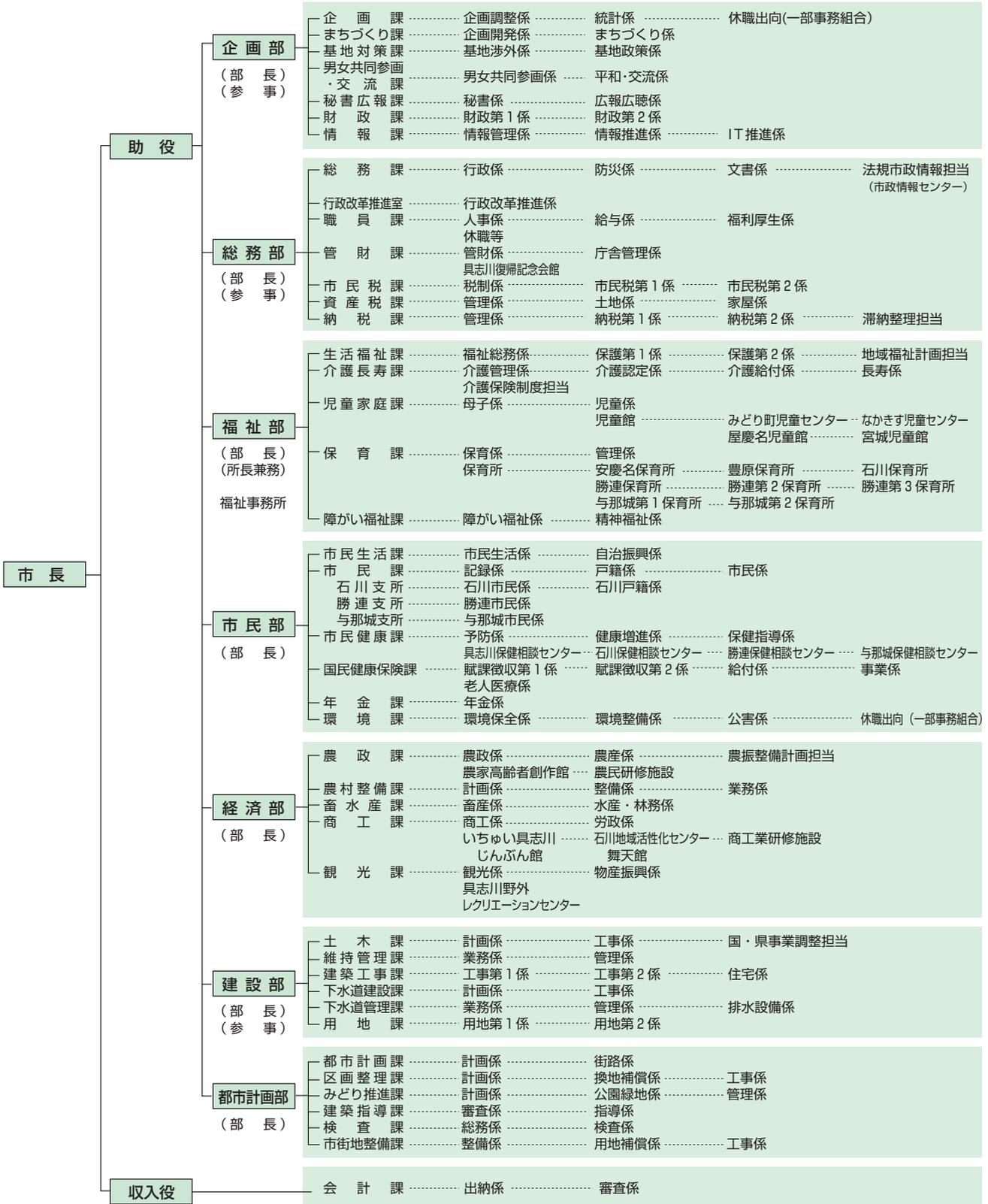
番号	種別	名称	指定
1	有形民俗	東恩納当家葬祭具	昭和56年10月15日
2	有形民俗	伊波金細工鍛冶道具	昭和56年10月15日
3	建造物	嘉手刈観音堂	昭和59年6月12日
4	有形・無形民俗	伊波メソサー織	昭和63年11月15日
5	史跡	平敷屋タキノ	平成2年3月26日
6	有形民俗	南風原の村獅子	平成2年3月26日
7	有形民俗	伊波ヌール墓	平成6年3月4日
8	工芸品	三線真壁型(大型)	平成6年3月4日
9	工芸品	三線平仲知念型(大型)	平成6年3月4日
10	工芸品	三線鴨口与那型(中型)	平成6年3月4日
11	有形民俗	地頭代火の神	平成6年3月31日
12	史跡	アマミチューの墓	平成6年3月31日
13	有形民俗	シルミチュー	平成6年3月31日
14	建造物	ヤンガー	平成7年6月14日
15	名勝	犬名河(インナガー)	平成7年6月14日
16	建造物	ガーラ缸	平成7年6月14日
17	有形民俗	宮城御殿(ナグスクウドン)	平成7年6月14日
18	有形民俗	与佐次川(ユサチガー)	平成7年6月14日
19	史跡	平安座西グスク	平成7年6月14日
20	天然記念物(植物)	クボウグスクの植物群落	平成9年4月23日
21	有形民俗	中の御嶽	平成9年4月23日
22	史跡	ヤマトウンチュウ墓	平成9年4月23日
23	史跡	ワイトウイ	平成9年4月23日
24	無形民俗	南風原の獅子舞	平成11年3月10日
25	無形民俗	平安名のウムイ・クエーナ	平成11年3月10日
26	無形民俗	平敷屋エイサー	平成11年3月10日
27	無形民俗	天願獅子舞	平成11年7月15日
28	無形民俗	田場ティンペー	平成11年7月15日
29	建造物	吉本家	平成12年11月7日
30	史跡(戦争遺跡)	新川・クボウグスク周辺の陣地壕群	平成16年3月3日
31	史跡	兼筒段ジョーミーチャー墓	平成17年2月16日
32	史跡	田場ガー	平成17年2月16日
33	史跡	大田坂	平成17年2月16日
34	史跡	沖縄諮詢会堂跡	平成17年3月1日
35	史跡	東恩納博物館跡	平成17年3月1日
36	史跡	石川部落事務所	平成17年3月1日
37	無形民俗	越来治喜(マールン船の建造技術)	平成17年3月4日
38	無形民俗(民俗芸能)	宮城ウンデーク	平成17年3月4日

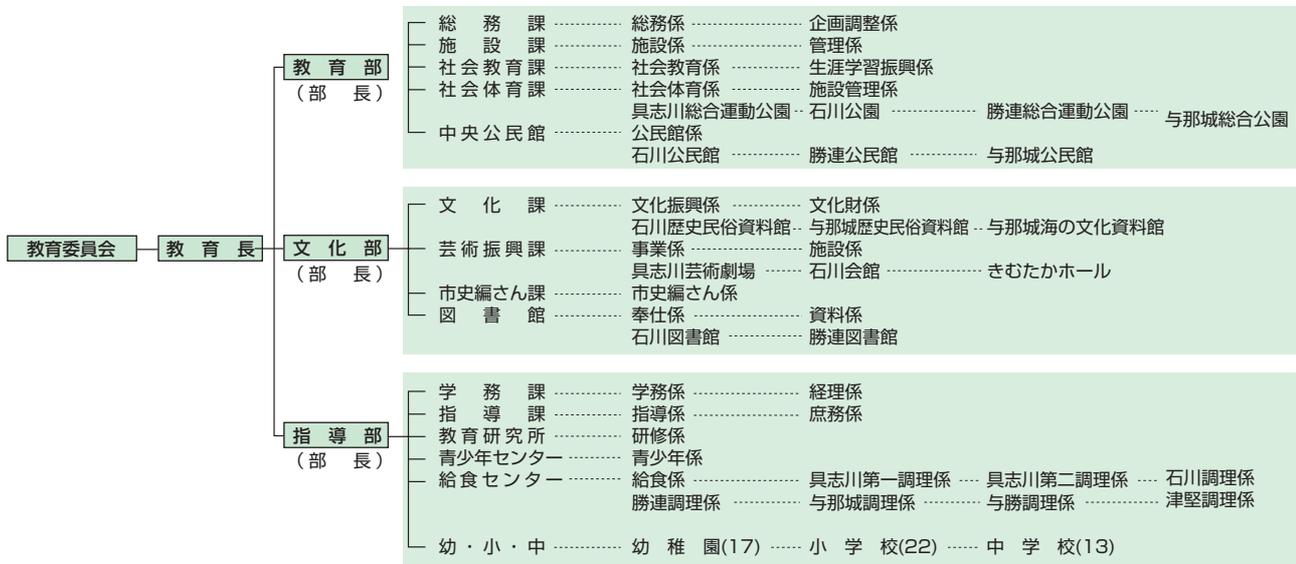


うるま市行政組織・機構図

[平成17年4月1日施行]

Administrative Organization Chart





写真で見ると うるま市

人と人がつながって家族になる





家族と家族が
つながるから
まちができる





「うるま市」は
ひとつひとつの
おもいをつないで
誕生しました。



うるまを意味する

「さんご礁に囲まれた島」に

ふさわしく、





海に面した美しいまち並みから



沖縄の美しい心を発信し、
新しい未来へ飛躍します。





U R U M A C I T Y



URUMA CITY



2006 市勢要覧

発行：平成18年3月

編集：うるま市企画部秘書広報課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

TEL (098) 973-5079

FAX (098) 975-1111